

令和5年度

男女共同参画の視点からの「防災」に関する市民意識・行動調査
報告書

大阪市

大阪市立男女共同参画センター中央館

(クレオ大阪中央)

指定管理者:大阪市男女共同参画推進事業体

代表者:一般財団法人大阪男女いきいき財団

令和6年3月

はじめに

クレオ大阪中央研究室においては、男女共同参画社会の実現をめざし、大阪市の男女共同参画施策とクレオ大阪の各種事業に資する調査研究を行っています。大阪市においては、令和3年度から令和7年度までの5年間の「大阪市男女共同参画基本計画～第3次大阪市きらめき計画～」を策定し男女共同参画社会の実現に向けた取組を進めています。なかでも防災分野においては、「持続可能な男女共同参画社会の実現に向けた環境づくり」の一環として、防災・復興における男女共同参画の推進に取り組んでいます。災害の発生はあらゆる人の生活を脅かしますが、とりわけ女性や子ども、脆弱な状況にある人がより多くの影響を受けます。また、過去の災害時で様々な意思決定過程に女性の参画が十分に確保されず、性別によるニーズの違いなどが配慮されにくいといった課題が生じたことを踏まえ、平時から男女共同参画の視点に立った取組を推進しているところです。

こうした背景から、今年度クレオ大阪中央研究室では、防災に関する意識や行動に関して、特に性別や年代、家族構成による有意差を把握し、施策や事業に資するものとして調査を実施しました。本報告書が幅広く活用され、男女共同参画社会の実現に向けた取組の一助となれば幸いです。最後に、本調査研究の実施にあたり、ご尽力いただきました皆様に御礼申し上げます。

令和6年3月

大阪市立男女共同参画センター中央館（クレオ大阪中央）

研究室長 服部 良子

目 次

I. 調査概要	
1. 調査課題について	3
2. 調査事項	4
3. 調査方法	6
4. 調査期間	6
5. 調査対象・サンプル	6
6. 報告書内で使用する用語、定義	6
II. 調査結果	
1. 基本属性	7
2. 防災に関する意識や知識について	10
3. 地域での防災活動について	16
4. 防災に関する情報について	44
III. 考察	48
IV. まとめ	52

I. 調査概要

1. 調査課題について

男女共同参画視点の防災施策における基本認識は次の通りである。

大阪市男女共同参画基本計画～第3次大阪市きらめき計画～によれば、防災（65頁）の具体的な課題として3点が指摘されている。第一に、大規模災害の発生は、女性や子ども、脆弱な状況にある人々がより多くの影響を受ける現状がある。第二に、これまでの災害においては、さまざまな意志決定過程への女性の参画が十分に確保されなかった。第三に、女性と男性のニーズの違いなどが配慮されにくい、などである。こうした指摘について市民の実態を明らかにして、大阪市の男女共同参画視点の防災施策の現状と課題を明らかにすることが本調査の目的である。

従前、わが国では、国レベルの総合的かつ長期的な計画である防災基本計画と、地方レベルの都道府県及び市町村の地域防災計画を定め、それぞれのレベルで防災活動を実施してきた。しかしながら、東日本大震災において、自助、共助及び公助が連携することによって大規模広域災害後の災害対策がうまく働くことが強く認識され、その教訓を踏まえて、平成25年に一部改正された災害対策基本法では、自助及び共助に関する規定がいくつか追加されている。

防災は、自分自身の身は自分で守る「自助」、身近にいる人同士での助け合いやボランティア活動による「共助」、行政による「公助」が、効果的に組み合わせられる必要がある。

さらに、近年では、こうした点とともに、男女共同参画視点の防災施策の必要性も指摘されている。例えば、これまでの日本における災害とその被災および復興経験にもとづいた「災害対応力を強化する女性の視点～男女共同参画の視点からの防災・復興ガイドライン～」（内閣府、令和2年5月）が、そのひとつである。

このガイドライン（*第1部基本方針）では、7つの基本方針を示している。それによると防災施策すなわち災害対応をめぐるシステムや制度の運用において、第一に、地域活動の企画や方針決定に女性の視点を反映すること、第二に、そのためには地域活動の場において女性の参画がより今以上に拡大することが重要であるとしている。

こうした防災関連の制度運用に対する男女共同参画視点の要請の背景には、現状として地域の組織や団体の長など活動の中心的な役割を果たす女性がまだまだ少ないことがある。そのため女性リーダーを増やしていくことが歴年の男女共同参画施策の方針（2016年の熊本地震支援にはじまり、2018年、2019年、2020年、2021年、2022年の各年に方針として挙げられた）においても急務とされている。防災に関する地域活動に関心や意欲のある女性の発掘・育成や活躍にむけた支援が必要であるということである。

大阪市においても、市域で想定される各種災害の被害軽減を図るため、取り組むべき施策や目標の1つとして、地域防災における男女共同参画の視点を踏まえた取組の推進を進めている。

しかしながら、令和元年度「男女共同参画に関する市民意識調査」（大阪市）によると、地域活動に参加したことがある女性の割合は65.1%、男性は53.6%となっており、女性の方が高い一方で、同調査において地域活動・社会活動の場における男女平等が進んでいるかをきいたところ、男性の方が優遇されていると回答した女性は約44%あり、女性自身が、活動の企画、方針決定にあたって中心的な役割を果たしているという実感が得られていない実情がある。

そこで、本調査では、男女共同参画視点の防災施策が大阪市においてどのような現状にあり、対処すべきいかなる課題を持っているかを明らかにすることを目的に実施した。

具体的には、第一に、防災に関する知識と認識すなわち意識を調査した。第二に、防災に関する地域活動に関連する参画すなわち行動を調査した。第三には、意識と行動の両者に共通する要素を調査した。特により一層の女性の参画については第三の領域における検討要素となると考えている。それぞれの要素における男女の差異を確認する。

2. 調査事項

設問項目一覧は以下のとおりである。

問 1	あなたの性別をお答えください。（ひとつだけ）
問 2	あなたの年齢をお答えください。（ひとつだけ）
問 3	あなたの現在のお住まいはどちらですか。（ひとつだけ）
問 4	お住まいの区はどちらですか。（ひとつだけ）
問 5	あなたと同居している人をお答えください。（いくつでも）
問 6	【問 5 で「3. 子」と回答】 あなたが同居している子どもについて、最も年齢が低い人についてお答えください。（ひとつだけ）
問 7	あなたのお住まいの住居形態をお答えください。（ひとつだけ）
問 8	あなたは現在就労していますか。（ひとつだけ）
問 9	【問 8 で「1. 就労している」と回答】 ふだんの1週間の通勤時間を含めた就業時間はどれくらいですか。残業や副業をしている場合はその時間も含めてお答えください。（ひとつだけ）
問 10	令和4年中（2022年1月～12月）の世帯の収入をお答えください。（ひとつだけ）
問 11	地震調査研究推進本部地震調査委員会によれば、南海トラフ沿いの巨大地震の発生について、今後30年以内にマグニチュード8～9クラスの巨大地震が発生する確率が70%から80%とされています。巨大地震の発生が切迫していることを知っていましたか。（ひとつだけ）
問 12	あなたは、お住まいの地域のハザードマップを見たことがありますか。（いくつでも）
問 13	あなたは、ここ1～2年の間に、一度でもご家族や身近な人と、自然災害（地震、津波、台風、大雨など）が起きたときの対処や日ごろの備えなどについて話し合ったことがありますか。（ひとつだけ）
問 14	【問 13 で「1. ある」と回答】 自然災害（自身、津波、台風、大雨など）が起きた時の対処や日ごろの備えなどについて、ご家族や身近な人とどのような内容を話し合いましたか。（いくつでも）

問 15	【問 13 で「2. ない」と回答】 話し合ったことがない理由は何ですか。（いくつでも）
問 16	災害に備えて、どのような対策をとっていますか。（いくつでも）
問 17	災害時に困ったことがあったと想定した場合、地域のなかで（おおよそ小学校区の範囲内で）話をすることができる人はいますか。（ひとつだけ）
問 18	【問 17 で「1. いる」と回答】 災害時に困ったことがあったと想定した場合、地域のなかで（おおよそ小学校区の範囲内で）相談することができる人はどなたですか。（いくつでも）
問 19	災害時にあなたが避難生活で心配なことを教えてください。（いくつでも）
問 20	災害が発生し避難の必要が生じた場合に、ご自身が避難する予定の避難所には、どのようなものが備蓄されていると思いますか。（いくつでも）
問 21	災害が発生し避難の必要が生じた場合に、ご自身が避難する予定の避難所に希望することがあれば教えてください。（いくつでも）
問 22	地域における避難所などにおいて、一定期間を避難者同士で生活することとなった場合、どのような生活になると感じていますか。（ひとつだけ）
問 23	地域の防災活動におけるリーダーは男性、女性のどちらが多いと思いますか。（ひとつだけ）
問 24	どうすれば、男女両方の意見やニーズが反映された避難所生活になるとと思いますか。（いくつでも）
問 25	避難所において、性別に応じて特に配慮が必要となると思うことがらがあれば、具体的にお書きください。（自由記述）
問 26	お住まいの地域では、どのような組織・団体が防災活動をおこなっていますか。（いくつでも）
問 27	お住まいの地域で行われている防災活動について、あなたの参加・参画の状況を教えてください。（それぞれひとつずつ）
問 28	【問 27 で「参加・参画していない」以外が一つ以上回答】 地域における防災活動に参加・参画している理由をお答えください。（いくつでも）
問 29	【問 27 で「参加・参画していない」以外が一つ以上回答】 防災活動に参加・参画してみてどのようなことを感じましたか。（いくつでも）
問 30	【問 27 で全て「参加・参画していない」と回答】 地域における防災活動に参加・参画していない理由をお答えください。（いくつでも）
問 31	【問 27 で全て「参加・参画していない」と回答】 何があれば地域における防災活動に参加しますか。（いくつでも）
問 32	次のような地域防災活動において男女の関わりに偏りがあると思いますか。（それぞれひとつずつ）
問 33	地域における防災活動に関して、性別の違いが影響していると思うことをお書きください。（自由記述）
問 34	大阪市では、男女共同参画の視点からの防災・復興の取組を推進しています。男女共同参画の視点からの防災に関する施策であなたが重要だと思うものをお答えください。（3つまで）
問 35	あなたは防災に関する知識や情報を入手するために、どのようなものを積極的に活用していますか。（いくつでも）

問 36	【問 35 で「9. 特になし」以外と回答】 前の設問にてお聞きした知識や情報を入手するために活用しているものの中で、大阪市・区役所に情報発信を担ってほしいと考えるものがあればお答えください。（いくつでも）
問 37	災害などの対策に取り組むために、どのような「情報」があるとより積極的に備えようと思えますか。（いくつでも）

3. 調査方法

インターネット・モニターに対するアンケート調査

4. 調査期間

令和 5 年 9 月 21 日（木）～9 月 23 日（土）

5. 調査対象・サンプル

大阪市在住の 20 歳以上の男女 1,200 人

主に性別による差異を把握する目的に実施するため、年代ごとに均等割り付けを行った

	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代以上	計
男性	100 人	100 人	100 人	100 人	100 人	100 人	600 人
女性	100 人	100 人	100 人	100 人	100 人	100 人	600 人
男女計	200 人	200 人	200 人	200 人	200 人	200 人	1,200 人

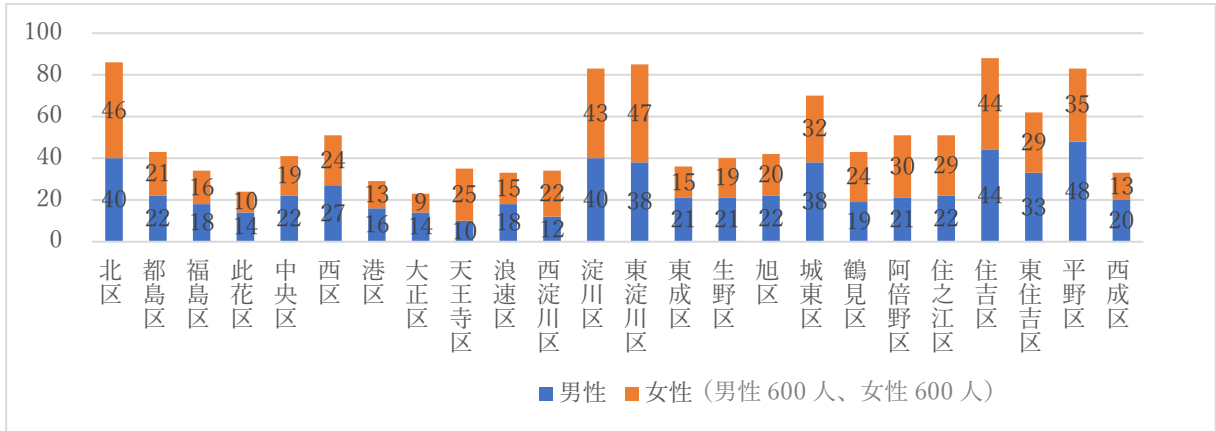
6. 報告書内で使用する用語、定義

	分類	内容
世帯別	単身世帯	世帯員が一人（回答者のみ）の世帯
	子育て世帯	世帯員に子どもがいる世帯の中でも、本調査では末子が未就学である子どもと同居している人。それ以上の子どももいる場合を含む。

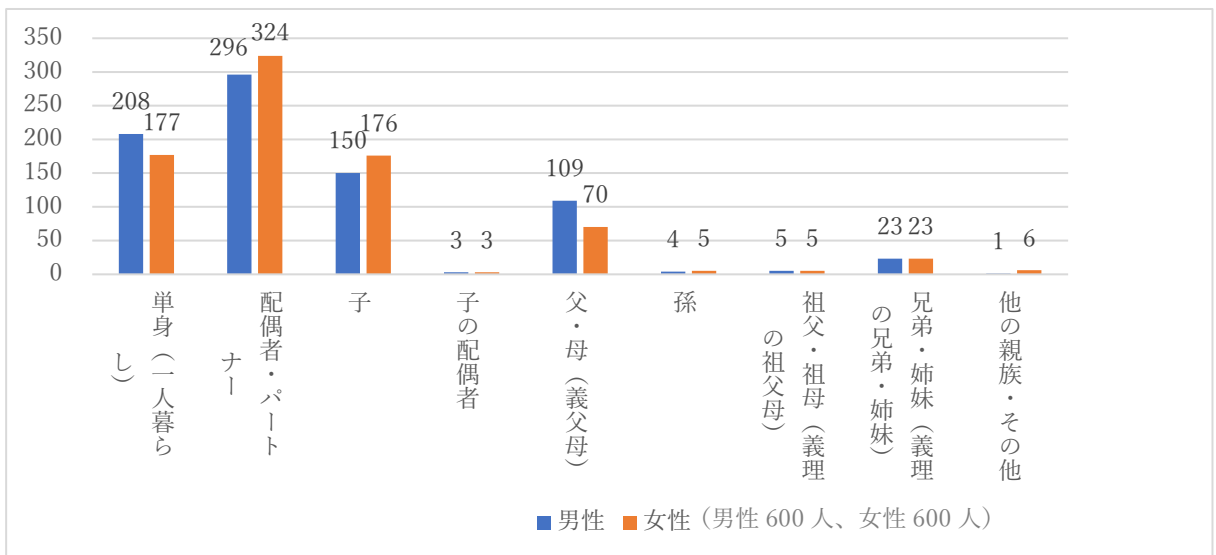
Ⅱ. 調査結果

1. 基本属性

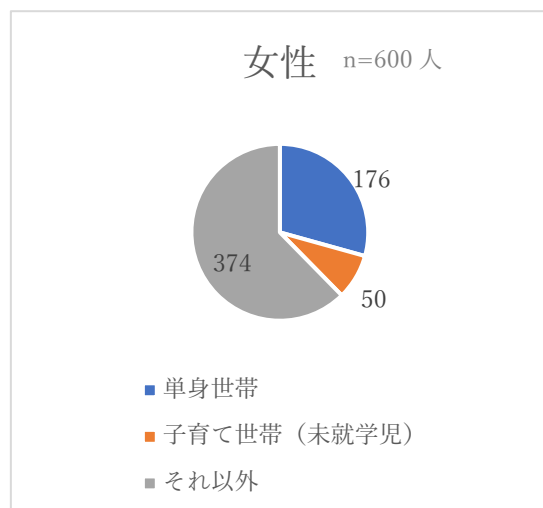
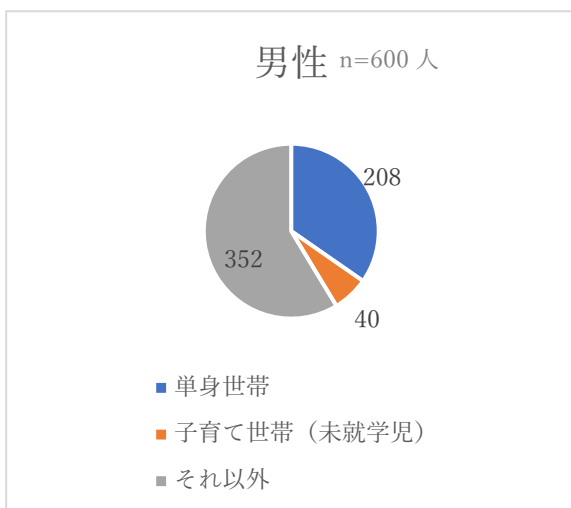
1) 居住区



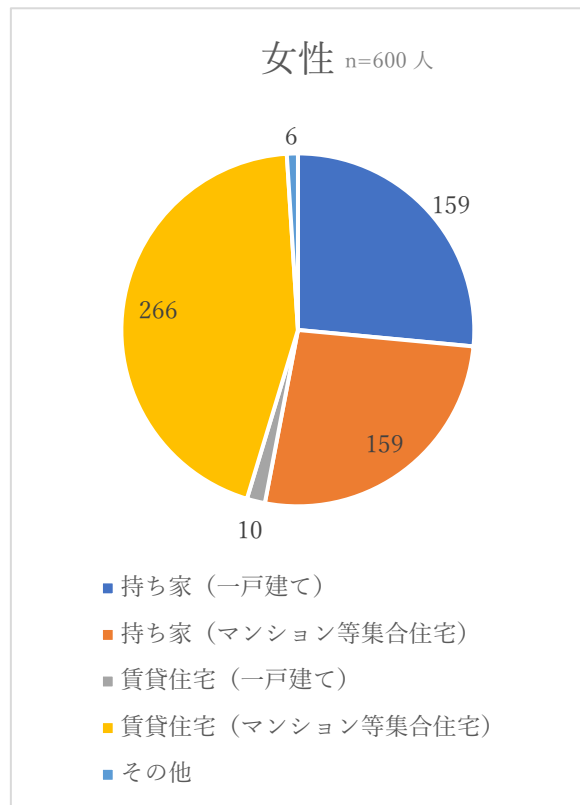
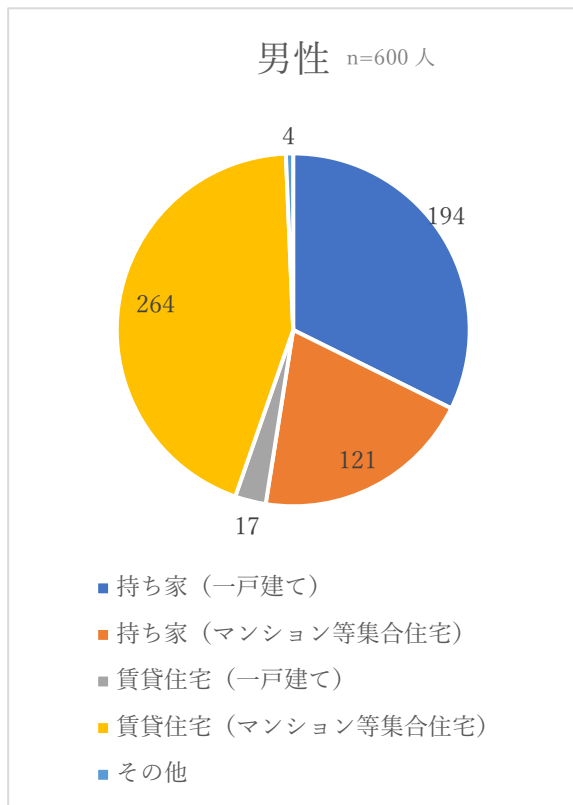
2) 同居家族



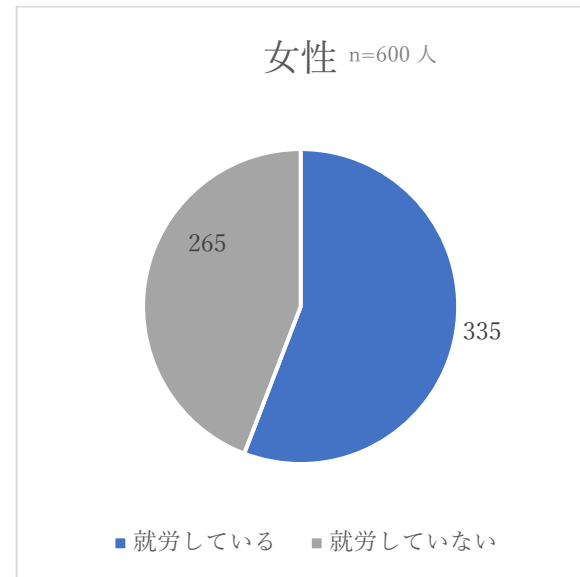
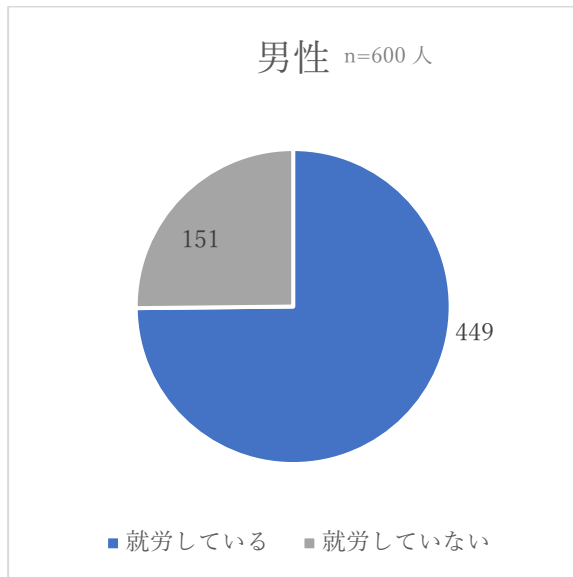
3) 世帯構成



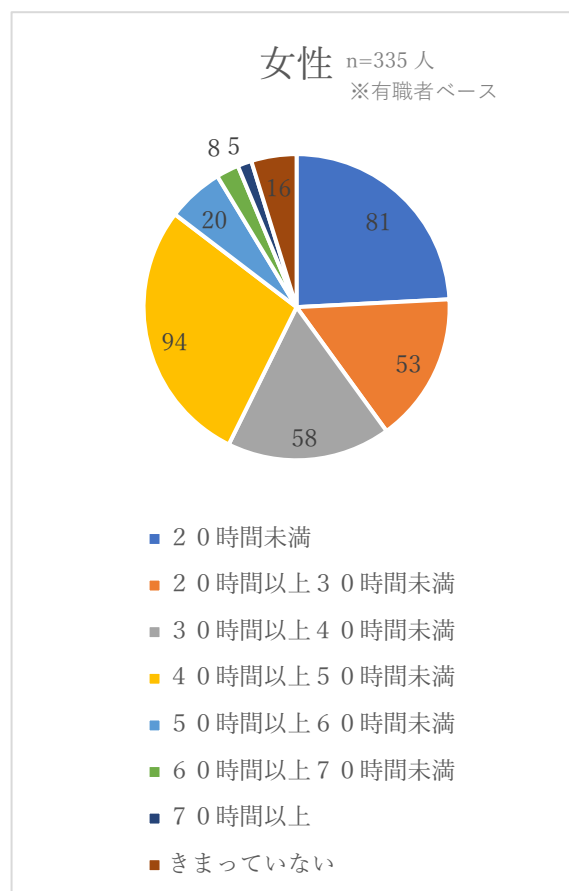
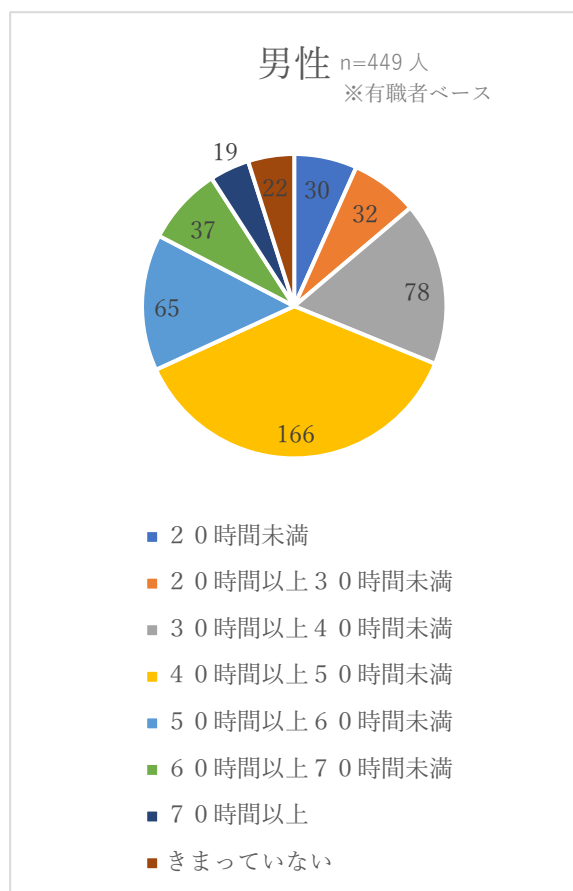
4) 住居形態



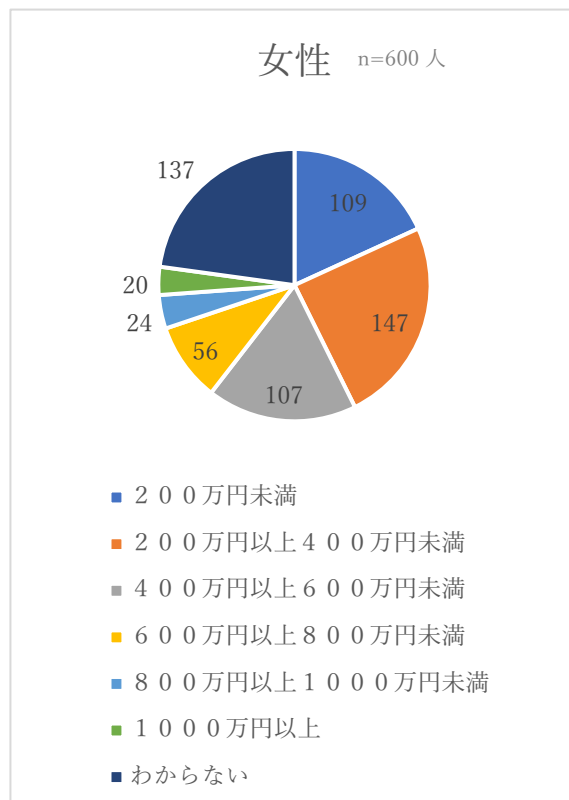
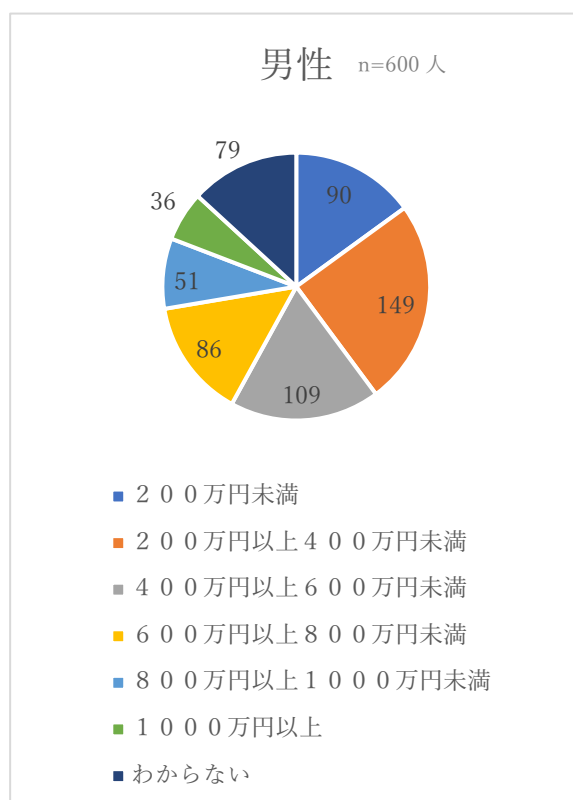
5) 就業状態



6) 就業時間（通勤、残業等含む）



7) 世帯年収（令和4年中）



2. 防災に関する意識や知識について

南海トラフ沿いの巨大地震の認知度

Q11 地震調査研究推進本部地震調査委員会によれば、南海トラフ沿いの巨大地震の発生について、今後30年以内にマグニチュード8～9クラスの巨大地震が発生する確率が70%から80%とされています。巨大地震の発生が切迫していることを知っていましたか。

(各 SA)

(%)

			回答者数 (n)	知っている	聞いたことはあるものの、詳しく知らない	知らない
		<div style="display: flex; flex-direction: column; gap: 5px;"> <div style="display: flex; align-items: center;"> : 全体より10ポイント以上</div> <div style="display: flex; align-items: center;"> : 全体より5ポイント以上</div> <div style="display: flex; align-items: center;"> : 全体より5ポイント以下</div> <div style="display: flex; align-items: center;"> : 全体より10ポイント以下</div> </div>				
全体			1,200	46.0	40.1	13.9
性別	男性		600	47.2	39.3	13.5
	女性		600	44.8	40.8	14.3
年代別	男性	20代	100	53.0	31.0	16.0
		30代	100	49.0	35.0	16.0
		40代	100	41.0	41.0	18.0
		50代	100	43.0	42.0	15.0
		60代	100	42.0	48.0	10.0
		70代以上	100	55.0	39.0	6.0
	女性	20代	100	48.0	35.0	17.0
		30代	100	47.0	35.0	18.0
		40代	100	51.0	32.0	17.0
		50代	100	36.0	49.0	15.0
		60代	100	44.0	45.0	11.0
		70代以上	100	43.0	49.0	8.0
同居家族別	男性	単身世帯	208	43.3	40.4	16.3
		単身世帯以外	352	48.0	39.5	12.5
		子育て世帯	40	60.0	32.5	7.5
	女性	単身世帯	176	34.1	46.0	19.9
		単身世帯以外	374	47.9	40.1	12.0
		子育て世帯	50	60.0	28.0	12.0

- 災害の発生に対する意識について、南海トラフ地震を取り上げてその認知度を把握するため設定した。
- 「知っている」「聞いたことはあるものの詳しくは知らない」と回答した人は、男女全体では差異はほとんどなかった。「知らない」と回答した人の割合も、各年代別でばらつきがみられるものの、男女差はほとんど見受けられない。
- 単身世帯の女性で「知っている」と回答した人の割合は、他の属性に比べて最も低く、また「知らない」と回答した人の割合も高い。
- 子育て世帯では、男女ともに「知っている」と回答した人の割合が60%となっており、相対的に高い割合となっている。

ハザードマップの閲覧の経験の有無

Q12 あなたは、お住まいの地域のハザードマップを見たことがありますか。(MA)

(%)

			回答者数 (n)	大阪市のホームページで見たことがある	大阪市・区役所が発行するパンフレットで見たことがある	その他で見たことがある	見たことはない	
		<div style="display: flex; flex-direction: column; gap: 5px;"> <div style="display: flex; align-items: center;"> :全体より10ポイント以上</div> <div style="display: flex; align-items: center;"> :全体より5ポイント以上</div> <div style="display: flex; align-items: center;"> :全体より5ポイント以下</div> <div style="display: flex; align-items: center;"> :全体より10ポイント以下</div> </div>						
全体			1,200	35.3	41.8	2.2	31.4	
性別	男性		600	40.0	39.8	1.7	32.0	
	女性		600	30.7	43.7	2.7	30.8	
年代別	男性	20代	100	49.0	24.0	2.0	36.0	
		30代	100	48.0	27.0	1.0	40.0	
		40代	100	39.0	38.0	0.0	38.0	
		50代	100	23.0	46.0	3.0	37.0	
		60代	100	47.0	48.0	2.0	22.0	
	70代以上	100	34.0	56.0	2.0	19.0		
	女性	20代	100	36.0	20.0	2.0	47.0	
		30代	100	29.0	35.0	6.0	34.0	
		40代	100	33.0	40.0	1.0	34.0	
		50代	100	32.0	51.0	1.0	25.0	
60代		100	32.0	52.0	3.0	27.0		
70代以上	100	22.0	64.0	3.0	18.0			
同居家族別	男性	単身世帯	208	35.1	33.7	2.9	38.5	
		単身世帯以外	352	40.9	43.2	1.1	28.7	
		子育て世帯	40	57.5	42.5	0.0	27.5	
	女性	単身世帯	176	27.8	36.4	2.8	38.1	
		単身世帯以外	374	31.0	48.4	2.7	27.5	
		子育て世帯	50	38.0	34.0	2.0	30.0	

- 自身が住んでいる地域の災害危険度の認識について、ハザードマップを挙げてその閲覧の経験の有無を把握するため設定した。
- ハザードマップを見たことがない人の割合は男女でほとんど差異はなかった。媒体について、男性は大阪市ホームページと市区が発行するパンフレットとでは、ほぼ同割合であったが、女性はパンフレットで見たことがある人の割合の方が13%高かった。
- 年代で比較すると、男女ともに年代が若い人の方がハザードマップを見たことがないと回答している。30歳以降、年代が上がるにつれ、ハザードマップをパンフレットで見たことがある人の割合が高くなる。
- ハザードマップを見たことがないと回答した人は単身世帯者の割合が高く、男性で38.5%、女性で38.1%となっている。特に女性単身世帯者はホームページでも、パンフレットでも相対的に見た人の割合が低い。

身近な人との防災について話した経験の有無

Q13 あなたは、ここ1～2年の間に、一度でもご家族や身近な人と、自然災害(地震、津波、台風、大雨など)が起きたときの対処や日ごろの備えなどについて話し合ったことがありますか。(各 SA)

(%)

			回答者数 (n)	ある	ない
		■ :全体より10ポイント以上 ■ :全体より5ポイント以上 ■ :全体より5ポイント以下 ■ :全体より10ポイント以下			
全体			1,200	43.9	56.1
性別	男性		600	41.3	58.7
	女性		600	46.5	53.5
年代別	男性	20代	100	44.0	56.0
		30代	100	43.0	57.0
		40代	100	46.0	54.0
		50代	100	41.0	59.0
		60代	100	35.0	65.0
		70代以上	100	39.0	61.0
	女性	20代	100	43.0	57.0
		30代	100	48.0	52.0
		40代	100	40.0	60.0
		50代	100	47.0	53.0
		60代	100	48.0	52.0
		70代以上	100	53.0	47.0
同居家族別	男性	単身世帯	208	23.6	76.4
		単身世帯以外	352	49.1	50.9
		子育て世帯	40	65.0	35.0
	女性	単身世帯	176	29.5	70.5
		単身世帯以外	374	53.7	46.3
		子育て世帯	50	52.0	48.0

- 防災について身近な人と共有をしているかについて、話し合いの経験の有無を把握するため設定した。
- 経験の有無について女性の方が「ある」と答えた人の割合が高く、約5ポイントの差異がみられた。特に70代女性は「ある」と回答した人の割合が53.0%となっており、男性と比べて19ポイント高くなっている。
- 年代別で比較すると男性は60代・70代にて「ある」と回答した人の割合が低い、女性の60代・70代は高い。
- 単身世帯では男女とも「ある」と回答した人の割合が低い。
- 子育て世帯は「ある」と回答した人の割合が高く、特に男性の方が割合が高い。

防災について身近な人と話し合った内容

Q14【問13で「ある」と回答した人】

自然災害(自身、津波、台風、大雨など)が起きた時の対処や日ごろの備えなどについて、ご家族や身近な人とどのような内容を話し合いましたか。(複数回答)

(%)

		回答者数 (n)	食料、飲料水、日用品、医薬品などの備蓄について	非常持ち出し品について	消火器や救急箱などの防災用具について	避難場所・経路について	緊急時の連絡方法について	災害が起きた直後に、誰が何をやるか(ガスの元栓を閉める、非常持ち出し品を確認するなど)の役割分担について	家の内外の危険箇所について	その他	
全体		527	61.5	45.2	14.6	52.6	44.4	28.3	27.9	0.9	
性別	男性	248	61.3	47.2	19.8	50.0	43.5	37.9	35.1	0.8	
	女性	279	61.6	43.4	10.0	54.8	45.2	19.7	21.5	1.1	
年代別	男性	20代	44	54.5	54.5	25.0	31.8	43.2	50.0	36.4	0.0
		30代	43	65.1	48.8	30.2	39.5	34.9	55.8	48.8	4.7
		40代	46	63.0	37.0	19.6	54.3	39.1	34.8	41.3	0.0
		50代	41	56.1	43.9	14.6	43.9	48.8	26.8	26.8	0.0
		60代	35	54.3	37.1	11.4	65.7	48.6	25.7	34.3	0.0
		70代以上	39	74.4	61.5	15.4	69.2	48.7	30.8	20.5	0.0
	女性	20代	43	39.5	41.9	11.6	37.2	27.9	30.2	20.9	2.3
		30代	48	60.4	39.6	8.3	56.3	37.5	18.8	18.8	0.0
		40代	40	67.5	42.5	12.5	52.5	45.0	15.0	22.5	0.0
		50代	47	68.1	48.9	8.5	61.7	57.4	14.9	23.4	4.3
		60代	48	70.8	52.1	12.5	60.4	50.0	22.9	25.0	0.0
		70代以上	53	62.3	35.8	7.5	58.5	50.9	17.0	18.9	0.0
同居家族別	男性	単身世帯	49	57.1	51.0	22.4	30.6	36.7	40.8	32.7	0.0
		単身世帯以外	173	63.6	45.1	16.8	54.9	44.5	35.3	32.4	1.2
		子育て世帯	26	53.8	53.8	34.6	53.8	50.0	50.0	57.7	0.0
	女性	単身世帯	52	53.8	36.5	9.6	38.5	30.8	21.2	9.6	0.0
		単身世帯以外	201	63.7	45.3	10.9	60.2	50.7	18.9	24.4	1.5
		子育て世帯	26	61.5	42.3	3.8	46.2	30.8	23.1	23.1	0.0

- 災害に対する日ごろの備えについて身近な人と話し合ったことがある人に対し、どのような内容を話し合ったのかを把握するため設定した。
- 男女ともに「食料、飲料水、日用品、医薬品などの備蓄について」話し合ったことがある人の割合が最も高く(男性 61.3%、女性 61.6%)、次いで「避難場所・経路について」(男性 50.0%、女性 54.8%)となっている。
- 20代女性はどの項目も相対的に割合が低い傾向がある。

防災について身近な人と話し合ったことがない理由

Q15【問13で「2. ない」と回答した人】

話し合ったことがない理由は何ですか。(複数回答)

(%)

		回答者数 (n)	自分や家族、身近な人の身の回りでは自然災害が起きないと思うから	自分や家族、身近な人の身の回りでは自然災害が起きたとしても、安全だと思	自分や家族、身近な人の身の回りでは自然災害が起きたとしても、安全だと思	自分や家族、身近な人の身の回りでは自然災害が起きたとしても、安全だと思	自分や家族、身近な人の身の回りでは自然災害が起きたとしても、安全だと思	話し合う時間がなかったから	話し合うきっかけがなかったから	関心や興味がなかったから	話し合う相手がいらないから	その他	特に理由はない
全体		673	3.3	4.3	8.0	9.4	41.0	6.1	10.8	1.0	33.3		
性別	男性	352	3.1	5.4	8.5	7.1	33.5	8.2	13.4	1.1	36.6		
	女性	321	3.4	3.1	7.5	11.8	49.2	3.7	8.1	0.9	29.6		
年代別	男性	20代	56	1.8	1.8	3.6	8.9	26.8	8.9	7.1	0.0	48.2	
		30代	57	5.3	3.5	8.8	10.5	36.8	10.5	3.5	1.8	38.6	
		40代	54	5.6	5.6	3.7	1.9	40.7	11.1	14.8	0.0	33.3	
		50代	59	5.1	3.4	6.8	13.6	33.9	8.5	18.6	1.7	32.2	
		60代	65	1.5	6.2	7.7	4.6	38.5	7.7	16.9	1.5	30.8	
	70代以上	61	0.0	11.5	19.7	3.3	24.6	3.3	18.0	1.6	37.7		
	女性	20代	57	7.0	0.0	3.5	10.5	49.1	8.8	3.5	0.0	36.8	
		30代	52	5.8	1.9	1.9	11.5	63.5	3.8	5.8	0.0	23.1	
		40代	60	1.7	1.7	3.3	13.3	63.3	3.3	6.7	0.0	25.0	
		50代	53	1.9	5.7	9.4	20.8	32.1	3.8	13.2	0.0	30.2	
60代		52	0.0	5.8	11.5	7.7	48.1	1.9	11.5	3.8	25.0		
70代以上	47	4.3	4.3	17.0	6.4	36.2	0.0	8.5	2.1	38.3			
同居家族別	男性	単身世帯	159	2.5	1.9	4.4	8.2	27.7	8.2	29.6	1.9	33.3	
		単身世帯以外	179	3.4	8.4	11.7	5.6	38.0	8.4	0.0	0.6	39.7	
		子育て世帯	14	7.1	7.1	14.3	14.3	42.9	7.1	0.0	0.0	35.7	
	女性	単身世帯	124	1.6	3.2	5.6	11.3	42.7	4.0	19.4	0.8	29.0	
		単身世帯以外	173	4.0	3.5	9.8	12.1	53.2	3.5	1.2	1.2	29.5	
		子育て世帯	24	8.3	0.0	0.0	12.5	54.2	4.2	0.0	0.0	33.3	
就業別	男性	有職	241	4.1	4.6	8.3	8.3	39.0	9.1	9.5	1.2	34.4	
		無職	111	0.9	7.2	9.0	4.5	21.6	6.3	21.6	0.9	41.4	
	女性	有職	188	2.7	2.1	6.4	12.8	51.1	4.8	9.0	1.1	27.7	
		無職	133	4.5	4.5	9.0	10.5	46.6	2.3	6.8	0.8	32.3	

- 防災について身近な人と話し合ったことがない理由を把握することを目的に設定した。
- 男女ともに回答の割合が高かったのは「話し合うきっかけがなかった」「特に理由はない」となっている。
- 「話し合うきっかけがなかった」とする人は特に女性の30代・40代で高く、約6割となっている。

災害への備え

Q16 災害に備えて、どのような対策をとっていますか。(複数回答)

(%)

		回答者数 (n)	食料・飲料水、日用品、医薬品などを準備している	貴重品などをすぐ持ち出せるように準備している	家具・家電などを固定し、転倒・落下・移動を防止している	懐中電灯や電池などの防災グッズを準備している	近くの学校や公共施設などの避難場所・避難経路を決めている	保険の確認・見直し	家族の安否確認の方法などを決めている	普段の近所づきあい	屋根瓦や窓など住宅の補修をしている	その他	
全体		1,200	53.1	25.8	23.8	42.4	31.3	10.8	16.6	9.1	4.3	7.7	
性別	男性	600	50.5	28.3	23.8	38.3	28.3	11.5	14.8	11.3	5.7	8.0	
	女性	600	55.7	23.3	23.7	46.5	34.3	10.0	18.3	6.8	2.8	7.3	
年代別	男性	20代	100	53.0	35.0	26.0	28.0	21.0	11.0	23.0	8.0	8.0	10.0
		30代	100	53.0	38.0	30.0	34.0	27.0	18.0	16.0	12.0	7.0	3.0
		40代	100	55.0	24.0	21.0	35.0	28.0	14.0	11.0	9.0	7.0	5.0
		50代	100	43.0	18.0	26.0	36.0	31.0	10.0	17.0	11.0	5.0	14.0
		60代	100	45.0	32.0	19.0	45.0	27.0	7.0	10.0	15.0	4.0	6.0
		70代以上	100	54.0	23.0	21.0	52.0	36.0	9.0	12.0	13.0	3.0	10.0
	女性	20代	100	44.0	19.0	16.0	20.0	25.0	10.0	19.0	1.0	1.0	10.0
		30代	100	53.0	26.0	19.0	39.0	31.0	12.0	16.0	4.0	2.0	10.0
		40代	100	59.0	22.0	15.0	47.0	37.0	6.0	10.0	6.0	1.0	7.0
		50代	100	58.0	23.0	24.0	54.0	39.0	14.0	24.0	10.0	4.0	4.0
		60代	100	57.0	24.0	34.0	57.0	36.0	9.0	19.0	8.0	5.0	8.0
		70代以上	100	63.0	26.0	34.0	62.0	38.0	9.0	22.0	12.0	4.0	5.0
同居家族別	男性	単身世帯	208	46.2	25.0	12.0	29.3	18.8	9.6	10.1	7.7	2.9	11.5
		単身世帯以外	352	52.6	28.7	27.8	41.8	32.4	11.9	16.8	12.8	6.8	6.5
		子育て世帯	40	55.0	42.5	50.0	55.0	42.5	17.5	22.5	17.5	10.0	2.5
	女性	単身世帯	176	56.8	22.2	13.6	39.2	24.4	4.5	9.7	3.4	1.1	11.9
		単身世帯以外	374	55.9	24.1	29.1	51.3	38.8	12.0	23.3	8.6	3.7	5.3
		子育て世帯	50	50.0	22.0	18.0	36.0	36.0	14.0	12.0	6.0	2.0	6.0

- 市民がどのような災害対策を行っているかを把握することを目的に設定した。
- 最も行っている対策は「食料・飲料水、日用品、医薬品などを準備している」となっており(男性 50.5%、女性 55.7%)、次いで「懐中電灯や電池などの防災グッズを準備している」(男性 38.3%、女性 46.5%)、「近くの学校や公共施設などの避難所・避難経路を決めている」(男性 28.3%、女性 34.3%)と続いており、男女ともに同傾向となっている。
- 子育て世帯では、女性より男性の方が対策を行っているが、60代・70代以上では女性の方が対策を行っている割合が高い。

3. 地域での防災活動について

災害時に困ったときに地域で話をする人可以る人の有無

Q17 災害時に困ったことがあったと想定した場合、地域の中で(おおよそ小学校区の範囲内で)話をする可以る人はいますか。
(SA)

(%)

			回答者数 (n)	いる	いないが、いたら いいと思う	いないし、必要 も感じない
全体			1,200	32.1	46.9	21.0
性別	男性		600	30.7	41.2	28.2
	女性		600	33.5	52.7	13.8
年代別	男性	20代	100	34.0	36.0	30.0
		30代	100	30.0	46.0	24.0
		40代	100	27.0	43.0	30.0
		50代	100	29.0	42.0	29.0
		60代	100	28.0	45.0	27.0
	70代以上	100	36.0	35.0	29.0	
	女性	20代	100	25.0	63.0	12.0
		30代	100	32.0	47.0	21.0
		40代	100	26.0	57.0	17.0
		50代	100	30.0	52.0	18.0
60代		100	34.0	58.0	8.0	
70代以上	100	54.0	39.0	7.0		
同居家族別	男性	単身世帯	208	17.8	45.7	36.5
		単身世帯以外	352	36.6	38.6	24.7
		子育て世帯	40	45.0	40.0	15.0
	女性	単身世帯	176	23.9	58.0	18.2
		単身世帯以外	374	35.6	51.1	13.4
		子育て世帯	50	52.0	46.0	2.0
住居別	男性	持ち家(一戸建て)	194	40.7	38.1	21.1
		持ち家(集合住宅)	121	33.1	43.0	24.0
		賃貸(集合住宅)	264	20.8	43.9	35.2
		その他	21	47.6	23.8	28.6
	女性	持ち家(一戸建て)	159	45.9	42.1	11.9
		持ち家(集合住宅)	159	32.1	54.7	13.2
		賃貸(集合住宅)	266	26.3	58.3	15.4
		その他	16	43.8	43.8	12.5
就業別	男性	有職	449	33.0	41.4	25.6
		無職	151	23.8	40.4	35.8
	女性	有職	335	28.1	55.5	16.4
		無職	265	40.4	49.1	10.6

- 避難所生活となった場合の地域のつながりについて把握するために設定した。
- 男女全体では「いる」と回答した人の割合は男女ともに3割程度と大きな差異が見られない。
- 「いないが、いたらいいと思う」と回答した男性は41.2%だったのに対し、女性は52.7%がそのように回答している。「いないし、必要も感じない」とした男性は28.2%なのに対し、女性は13.8%となっており、女性の方が話をする可以る人を必要と感じている。

- 子育て世帯は男女ともに5割前後が「いる」と回答しており、他属性よりもその割合が高い。一方で単身世帯者の男女、賃貸(集合住宅)に住む男女はその割合が低い。

災害時に困ったときに地域で話をする事ができる相手の種類

Q18 【問17で「いる」と回答した人】

災害時に困ったことがあったと想定した場合、地域の中で(おおそ小学校区の範囲内で)相談することができる人はどなたですか。

(MA)

(%)

			回答者数(n)	家族・親族	友人・知人	自治会・近所の人	仕事・学校関係者(職場の同僚・学校の先生等)	その他
全体			385	66.2	55.8	44.7	8.8	0.5
性別	男性		184	64.1	54.9	50.0	12.5	0.0
	女性		201	68.2	56.7	39.8	5.5	1.0
同居家族別	男性	単身世帯	37	45.9	67.6	35.1	13.5	0.0
		単身世帯以外	129	67.4	49.6	54.3	10.9	0.0
		子育て世帯	18	77.8	66.7	50.0	22.2	0.0
	女性	単身世帯	42	54.8	47.6	23.8	7.1	0.0
		単身世帯以外	133	70.7	60.9	48.9	5.3	0.8
		子育て世帯	26	76.9	50.0	19.2	3.8	3.8
住居別	男性	持ち家(一戸建て)	79	68.4	54.4	60.8	7.6	0.0
		持ち家(集合住宅)	40	77.5	45.0	47.5	17.5	0.0
		賃貸(集合住宅)	55	47.3	63.6	34.5	12.7	0.0
		その他	10	70.0	50.0	60.0	30.0	0.0
	女性	持ち家(一戸建て)	73	76.7	56.2	52.1	5.5	0.0
		持ち家(集合住宅)	51	70.6	60.8	31.4	5.9	0.0
		賃貸(集合住宅)	70	58.6	52.9	34.3	5.7	2.9
		その他	7	57.1	71.4	28.6	0.0	0.0

- 避難所生活を想定した場合に、相談できる相手の種類を把握するために設定した。
- 男女ともに、「家族・親族」(男性64.1%・女性68.2%)、「友人・知人」(男性54.9%・女性56.7%)、「自治会・近所の人」(男性50.0%・女性39.8%)と続いている。
- 単身世帯の男女、集合住宅に住む男女は「自治会・近所の人」と回答した人の割合が相対的に低くなっている。

災害時の避難生活で心配なこと

Q19 災害時にあなたが避難生活で心配なことを教えてください。(MA)

(%)

		回答者数 (n)	家の倒壊・破損やライフラインの停止で自宅での生活できなくなる(こと)	食料や生活用品が手に入らなくなる(こと)	子ども、障がい者(児)、高齢者(同居家族またはご本人)の避難生活	女性や子どもへの暴力	自分や家族のストレス	自分または家族の健康面・病気	家族や他の避難者との人間関係	自身の経済状況や生活再建	特に心配はない	その他	
全体		1,200	59.3	53.8	17.2	10.2	39.7	44.3	23.1	35.1	11.0	1.8	
性別	男性	600	54.8	48.2	14.7	8.0	34.0	37.2	19.7	28.7	14.8	0.7	
	女性	600	63.8	59.3	19.7	12.3	45.3	51.5	26.5	41.5	7.2	2.8	
年代別	男性	20代	100	48.0	42.0	16.0	14.0	43.0	25.0	23.0	19.0	18.0	0.0
		30代	100	56.0	48.0	25.0	14.0	41.0	29.0	23.0	32.0	15.0	0.0
		40代	100	56.0	54.0	20.0	12.0	41.0	41.0	21.0	38.0	8.0	2.0
		50代	100	55.0	49.0	6.0	4.0	37.0	43.0	15.0	34.0	14.0	1.0
		60代	100	58.0	50.0	10.0	1.0	24.0	37.0	22.0	29.0	19.0	1.0
		70代以上	100	56.0	46.0	11.0	3.0	18.0	48.0	14.0	20.0	15.0	0.0
	女性	20代	100	53.0	55.0	24.0	13.0	37.0	34.0	20.0	38.0	9.0	4.0
		30代	100	62.0	66.0	27.0	17.0	53.0	50.0	28.0	44.0	9.0	1.0
		40代	100	74.0	65.0	26.0	25.0	53.0	57.0	31.0	59.0	5.0	3.0
		50代	100	64.0	60.0	15.0	11.0	58.0	58.0	27.0	39.0	8.0	3.0
		60代	100	71.0	62.0	19.0	5.0	46.0	58.0	32.0	39.0	5.0	2.0
		70代以上	100	59.0	48.0	7.0	3.0	25.0	52.0	21.0	30.0	7.0	4.0
同居家族別	男性	単身世帯	208	49.0	43.3	7.2	6.7	28.4	33.7	15.4	28.4	18.8	0.5
		単身世帯以外	352	58.0	49.4	14.5	6.0	36.6	40.1	21.3	28.1	13.4	0.9
		子育て世帯	40	57.5	62.5	55.0	32.5	40.0	30.0	27.5	35.0	7.5	0.0
	女性	単身世帯	176	59.7	55.1	6.3	11.9	34.7	39.8	25.0	46.6	10.2	4.5
		単身世帯以外	374	67.1	61.2	20.3	12.8	50.5	58.0	27.8	40.6	5.9	2.4
		子育て世帯	50	54.0	60.0	62.0	10.0	44.0	44.0	22.0	30.0	6.0	0.0

- 避難生活においてどのようなことが心配としているか属性別に傾向を把握するために設定した。
- すべての選択肢で女性の方が心配とする割合が高くなっている。特に「自分または家族の健康面・病気」で男女差が14.3ポイント差、「自身の経済状況や生活再建」で12.8ポイント差がある。
- 「特に心配はない」とする女性は7.2%に対し、男性は14.8%と、約2倍の割合となっている。
- 単身世帯者では「自身の経済状況や生活再建」を心配する割合が男性では28.4%となっているのに対し、女性は46.6%と18.2ポイントの差がある。
- 家族との避難生活に対し、子育て世帯は男性が55.0%、女性は62.0%が心配と回答しており、高い割合となっている。

避難所の備蓄の認識

Q20 災害が発生し避難の必要が生じた場合に、ご自身が避難する予定の避難所には、どのようなものが備蓄されていると思いますか。
(MA)

			回答者数 (n)									(%)
			水、食料、トイレ等、生存に必要な最低限のものは備えられている	ティッシュ、せっけん、などある程度の日用品や衛生用品が備えられている	簡易ベッド、保温シートなど、ある程度の生活用具が備えられている	扇風機、暖房機など、より快適な生活ができるようなものが備えられている	乳幼児が必要なもの(ミルクやおむつ等)などが備えられている	性別に配慮されたもの(下着、生理用品等)が備えられている	高齢者に配慮されたもの(高齢者食、大人用おむつ等)が備えられている	その他	どのようなものが備えられているか知らない	
全体		1,200	55.3	32.3	23.8	15.3	11.2	15.3	12.0	0.7	35.4	
性別	男性	600	57.0	31.7	25.7	15.8	11.2	15.2	11.5	0.7	34.2	
	女性	600	53.7	33.0	22.0	14.8	11.2	15.5	12.5	0.7	36.7	
年代別	男性	20代	100	49.0	32.0	22.0	15.0	18.0	18.0	8.0	0.0	35.0
		30代	100	53.0	37.0	24.0	25.0	15.0	21.0	12.0	0.0	32.0
		40代	100	55.0	32.0	26.0	21.0	17.0	21.0	16.0	1.0	37.0
		50代	100	58.0	27.0	25.0	10.0	5.0	12.0	10.0	2.0	34.0
		60代	100	61.0	31.0	29.0	14.0	5.0	8.0	12.0	0.0	36.0
		70代以上	100	66.0	31.0	28.0	10.0	7.0	11.0	11.0	1.0	31.0
	女性	20代	100	51.0	25.0	19.0	15.0	16.0	16.0	14.0	1.0	31.0
		30代	100	60.0	29.0	19.0	10.0	11.0	17.0	9.0	0.0	35.0
		40代	100	49.0	33.0	21.0	13.0	7.0	22.0	9.0	1.0	43.0
		50代	100	50.0	33.0	23.0	12.0	10.0	10.0	8.0	1.0	41.0
		60代	100	55.0	38.0	24.0	21.0	12.0	15.0	14.0	0.0	36.0
		70代以上	100	57.0	40.0	26.0	18.0	11.0	13.0	21.0	1.0	34.0
同居家族別	男性	単身世帯	208	51.9	30.8	27.4	14.4	13.0	12.0	9.6	0.5	39.9
		単身世帯以外	352	59.4	30.4	24.1	14.8	8.5	15.3	12.2	0.9	32.1
		子育て世帯	40	62.5	47.5	30.0	32.5	25.0	30.0	15.0	0.0	22.5
	女性	単身世帯	176	45.5	29.0	18.2	13.6	9.1	13.6	12.5	1.7	44.9
		単身世帯以外	374	56.4	37.2	25.1	16.0	11.2	17.1	13.1	0.0	34.2
		子育て世帯	50	62.0	16.0	12.0	10.0	18.0	10.0	8.0	2.0	26.0

- 避難所にどのような備蓄があると想定しているかを把握するために設定した。
- 各項目において男女全体では大きな差異はなかった。「どのようなものが備えられているか知らない」と回答した人は、男性が 34.2%、女性が 36.7%とこちらも大きな差異はみられなかった。
- 子育て世帯の男性は、ほとんどの選択肢に対して「備蓄されていると思う」と回答しており、子育て世帯の女性よりも、割合が高くなっている。子育て世帯の男性は「知らない」と回答した人が、他の属性の男性と比べても割合が低い。

避難所に対する希望

Q21 災害が発生し避難の必要が生じた場合に、ご自身が避難する予定の避難所に希望することがあれば教えてください。(MA)

(%)

		回答者数 (n)	世帯別、男女別などで避難スペースを設ける	男女別のトイレ、物干し場、更衣室、 休養スペース、入浴設備を設ける	夜間でも明るく安全なトイレとその周辺の 環境がある	子ども、外国籍の人にも理解できるような案 内がある(絵、イラスト、ピクトグラム等)	やさしい日本語表記の情報がある	女性による生理用品などの配布がある	生活や心のケアに関する相談ができる	男性も女性も避難所運営に 参加・参画している	その他	
全体		1,200	61.3	66.3	53.3	17.8	11.8	31.6	30.9	21.4	4.3	
性別	男性	600	55.7	61.3	40.2	17.2	12.3	19.8	26.5	19.2	5.2	
	女性	600	67.0	71.2	66.5	18.3	11.2	43.3	35.3	23.7	3.3	
年代別	男性	20代	100	52.0	56.0	38.0	24.0	12.0	28.0	23.0	20.0	4.0
		30代	100	56.0	56.0	44.0	21.0	23.0	22.0	32.0	22.0	5.0
		40代	100	58.0	67.0	43.0	22.0	10.0	29.0	29.0	18.0	4.0
		50代	100	56.0	58.0	37.0	10.0	14.0	18.0	22.0	23.0	9.0
		60代	100	56.0	64.0	39.0	12.0	8.0	15.0	25.0	22.0	4.0
		70代以上	100	56.0	67.0	40.0	14.0	7.0	7.0	28.0	10.0	5.0
	女性	20代	100	58.0	61.0	53.0	20.0	10.0	62.0	18.0	14.0	1.0
		30代	100	72.0	68.0	61.0	19.0	8.0	63.0	40.0	27.0	3.0
		40代	100	75.0	75.0	70.0	21.0	14.0	68.0	42.0	28.0	2.0
		50代	100	76.0	76.0	70.0	16.0	7.0	26.0	37.0	26.0	4.0
		60代	100	61.0	79.0	75.0	19.0	14.0	25.0	40.0	28.0	5.0
		70代以上	100	60.0	68.0	70.0	15.0	14.0	16.0	35.0	19.0	5.0
同居家族別	男性	単身世帯	208	48.6	54.8	35.6	14.4	10.1	13.9	23.1	19.2	7.2
		単身世帯以外	352	59.7	65.3	42.6	18.2	12.8	21.3	27.6	18.2	4.5
		子育て世帯	40	57.5	60.0	42.5	22.5	20.0	37.5	35.0	27.5	0.0
	女性	単身世帯	176	64.8	68.8	68.2	16.5	11.9	43.2	33.5	22.7	2.8
		単身世帯以外	374	67.4	73.8	67.1	17.9	11.2	40.9	36.9	24.3	4.0
		子育て世帯	50	72.0	60.0	56.0	28.0	8.0	62.0	30.0	22.0	0.0

- 避難所にどのような希望、期待を持つか把握する目的で設定した。
- 男女全体では、「男女別のトイレ、物干し場、更衣室、休養スペース、入浴設備を設ける」と回答した人の割合が最も高く、男性が 61.3%、女性が 71.2%となっている。次いで「世帯別、男女別などで避難スペースを設ける」であり、男性が 55.7%、女性 67.0%となっており、いずれも女性の方が約 10 ポイント高い。
- 「夜間でも明るく安全なトイレとその周辺の環境がある」は男性 40.2%に対し、女性は 66.5%となっており、女性の方が 25 ポイント高い。特に 40 代～70 代以上で7割を超える人が希望している。
- 世帯別、男女別などでの避難スペースは女性と子育て世帯で特に希望した人の割合が高い。

避難生活に対する性別のニーズの反映の想定

Q22 地域における避難所などにおいて、一定期間を避難者同士で生活することとなった場合、どのような生活になると感じていますか。
(MA)

		(%)						
		回答者数 (n)	男性、女性の意見やニーズが反映された生活になると思う	男性の意見やニーズは反映されているが、女性の意見やニーズは反映されていない生活になると思う	女性の意見やニーズは反映されているが、男性の意見やニーズは反映されていない生活になると思う	男性、女性のいずれの意見やニーズも反映されていない生活になると思う	その他	
全体		1,200	35.7	13.0	10.1	37.1	4.2	
性別	男性	600	40.0	10.8	12.5	33.3	3.3	
	女性	600	31.3	15.2	7.7	40.8	5.0	
年代別	男性	20 代	100	35.0	21.0	16.0	24.0	4.0
		30 代	100	48.0	11.0	19.0	19.0	3.0
		40 代	100	36.0	13.0	15.0	34.0	2.0
		50 代	100	35.0	7.0	6.0	45.0	7.0
		60 代	100	34.0	12.0	15.0	39.0	0.0
		70 代以上	100	52.0	1.0	4.0	39.0	4.0
	女性	20 代	100	32.0	24.0	12.0	31.0	1.0
		30 代	100	35.0	13.0	7.0	42.0	3.0
		40 代	100	33.0	17.0	4.0	41.0	5.0
		50 代	100	25.0	22.0	8.0	40.0	5.0
		60 代	100	24.0	8.0	9.0	54.0	5.0
		70 代以上	100	39.0	7.0	6.0	37.0	11.0

同居家族別	男性	単身世帯	208	38.9	6.7	14.4	35.1	4.8
		単身世帯以外	352	41.2	11.6	10.2	34.1	2.8
		子育て世帯	40	35.0	25.0	22.5	17.5	0.0
	女性	単身世帯	176	26.1	16.5	6.3	47.2	4.0
		単身世帯以外	374	34.0	15.0	8.0	37.7	5.3
		子育て世帯	50	30.0	12.0	10.0	42.0	6.0

- 避難所の性別によるニーズの反映のされ方の想定を把握するために設定した。
- 「男性、女性の意見やニーズが反映された生活になると思う」とする男性は40.0%、女性は31.3%、「どちらの意見やニーズも反映されない」とする男性は33.3%、女性40.8%と逆転する。
- 男性は、男性の意見やニーズよりも女性のニーズの反映がなされると回答し、女性は女性の意見やニーズよりも男性のニーズの反映がなされると回答する人の割合の方が高い。
- 「男性、女性のいずれの意見やニーズも反映されていない生活になると思う」とする人の割合は、60代女性(45.0%)、単身世帯女性(47.2%)で高い割合となっている。

防災活動におけるリーダーの男女比の認識

Q23 地域の防災活動におけるリーダーは男性、女性のどちらが多いと思いますか。(SA)

(%)

		回答者数(n)	男性が多い	女性が多い	男女同数くらい	
全体		1,200	64.9	6.9	28.2	
性別	男性	600	65.0	5.5	29.5	
	女性	600	64.8	8.3	26.8	
年代別	男性	20代	100	61.0	2.0	37.0
		30代	100	67.0	3.0	30.0
		40代	100	72.0	7.0	21.0
		50代	100	63.0	5.0	32.0
		60代	100	64.0	7.0	29.0
		70代以上	100	63.0	9.0	28.0
	女性	20代	100	61.0	11.0	28.0
		30代	100	68.0	5.0	27.0
		40代	100	75.0	2.0	23.0
		50代	100	62.0	9.0	29.0
		60代	100	55.0	12.0	33.0
		70代以上	100	68.0	11.0	21.0

同居家族別	男性	単身世帯	208	54.3	5.3	40.4
		単身世帯以外	352	68.5	6.3	25.3
		子育て世帯	40	90.0	0.0	10.0
	女性	単身世帯	176	64.8	8.5	26.7
		単身世帯以外	374	64.2	8.0	27.8
		子育て世帯	50	70.0	10.0	20.0

- 防災活動におけるリーダーについての男女比をどのように思っているかを把握するために設定した。
- 男女全体では、性別によって大きな差異はみられない。
- 男性が多いと回答した割合が特に高い属性は、40代(男性72.0%・女性75.0%)、子育て世帯(男性90.0%・女性70.0%)となっている。

男女両方の意見・ニーズを反映させるためには

Q24 どうすれば、男女両方の意見やニーズが反映された避難所生活になると思いますか。(MA)

(%)

	回答者数 (n)	その他														
		地域の防災活動において男性の参加者を増やす	地域の防災活動において女性の参加者を増やす	地域の防災活動において男性のリーダーを増やす	地域の防災活動において女性のリーダーを増やす	地域の防災活動のリーダーが男女に配慮した視点を学習する機会を設ける	防災以外の地域の様々な活動において男性の参加者を増やす	防災以外の地域の様々な活動において女性の参加者を増やす	防災以外の地域の様々な活動において男性のリーダーを増やす	防災以外の地域の様々な活動において女性のリーダーを増やす	防災以外の地域の様々な活動のリーダーが男女に配慮した視点を学習する機会を設ける	男性に地域活動への参加・参画を促す研修を行う	女性に地域活動への参加・参画を促す研修を行う	その他		
全体	1,200	15.9	29.8	8.9	25.3	38.0	10.1	16.2	6.8	13.5	32.3	12.3	18.7	6.1		
性別	男性	600	19.7	29.0	11.5	24.7	33.0	10.8	15.8	7.8	12.3	24.5	12.2	15.8	6.8	
	女性	600	12.2	30.7	6.3	25.8	43.0	9.3	16.5	5.7	14.7	40.2	12.3	21.5	5.3	
年代別	男性	20代	100	28.0	27.0	21.0	19.0	32.0	10.0	15.0	10.0	10.0	21.0	11.0	11.0	4.0
		30代	100	23.0	33.0	12.0	26.0	29.0	12.0	16.0	10.0	10.0	23.0	13.0	17.0	6.0
		40代	100	20.0	43.0	10.0	31.0	30.0	13.0	18.0	8.0	11.0	18.0	14.0	14.0	3.0
		50代	100	16.0	22.0	10.0	21.0	29.0	10.0	14.0	8.0	17.0	25.0	13.0	18.0	17.0
		60代	100	13.0	25.0	8.0	25.0	36.0	11.0	17.0	9.0	14.0	24.0	11.0	14.0	5.0
		70代以上	100	18.0	24.0	8.0	26.0	42.0	9.0	15.0	2.0	12.0	36.0	11.0	21.0	6.0
	女性	20代	100	13.0	30.0	7.0	29.0	35.0	12.0	15.0	10.0	14.0	31.0	12.0	22.0	5.0
		30代	100	18.0	41.0	6.0	31.0	45.0	13.0	20.0	5.0	16.0	38.0	12.0	20.0	3.0
		40代	100	4.0	27.0	1.0	33.0	47.0	4.0	17.0	2.0	17.0	47.0	10.0	23.0	5.0
		50代	100	12.0	32.0	8.0	22.0	41.0	10.0	20.0	6.0	15.0	42.0	14.0	31.0	2.0
		60代	100	17.0	27.0	8.0	22.0	43.0	14.0	14.0	6.0	16.0	40.0	16.0	19.0	6.0
		70代以上	100	9.0	27.0	8.0	18.0	47.0	3.0	13.0	5.0	10.0	43.0	10.0	14.0	11.0

同居家族別	男性	単身世帯	208	17.3	21.2	10.1	18.8	31.7	10.1	12.5	9.1	9.6	26.9	8.7	13.9	9.1
		単身世帯以外	352	20.5	32.1	11.9	28.1	34.9	10.8	17.3	6.8	13.9	22.4	14.2	16.5	6.3
		子育て世帯	40	25.0	42.5	15.0	25.0	22.5	15.0	20.0	10.0	12.5	30.0	12.5	20.0	0.0
	女性	単身世帯	176	9.1	29.0	5.1	21.0	42.0	6.8	18.2	4.5	16.5	35.2	11.4	19.3	7.4
		単身世帯以外	374	13.1	29.4	7.2	27.0	44.9	10.7	16.3	7.0	14.4	44.7	13.4	23.0	4.3
		子育て世帯	50	16.0	46.0	4.0	34.0	32.0	8.0	12.0	0.0	10.0	24.0	8.0	18.0	6.0

- 男女両方の意見・ニーズを反映させるための方策の認識を把握するために設定した。
- 男女ともに「女性の参加者を増やす」と回答した人が概ね 30%、「女性のリーダーを増やす」と回答した人が概ね 25%となっている。
- 「地域の防災活動のリーダーが男女に配慮した視点を学習する機会を設ける」、「防災以外の地域の様々な活動のリーダーが男女に配慮した視点を学習する機会を設ける」と回答したのは、いずれも女性の方が割合が高く、それぞれ 10 ポイント、15.7 ポイントの差異がある。

避難所において性別に応じて特に配慮が必要となると思うこと

Q25 避難所において、性別に応じて特に配慮が必要となると思うことがらがあれば、具体的にお書きください。(自由記述)

- 部屋の割り振りは家族で別れても男女で分けるべき。男性 20 代
- まずはトイレや洗面所に関しては男女それぞれかかる時間が違うので、特に女性に関しては念入りにトイレの施設を作っておいたほうが良いと思う。男性 20 代
- 特に妊婦さんがリラックスして過ごせるような配慮が必要であると思われる。男性 20 代
- そもそも、女性だからなんだということじたいが間違っている。有事であるならばなおさら、性別など関係なくパフォーマンスを重視して物事を考えるべき。男性 30 代
- プライバシーの空間や相談員の男女の確保。男性 30 代
- トイレの区別、着替えなど男女の場をわけること、管理者の性別をわけること。男性 40 代
- 阪神大震災の時にも思ったが洗濯物干し場が共同なのが困っていた。男性 40 代
- 必要以上に気にすることはないと思います。男性 40 代
- その時になってみないとわからないが、過去の各地の経験者からの情報を大切にすべきではと思います。男性 50 代
- トイレ、更衣できる遮蔽空間、医療行為が必要な避難者を尊重した区画割り、ある程度の老若男女の体力適正を見越したボランティア作業を仕切れる避難所の指導者。男性 50 代
- 海外の避難所は比較的、男女別の配慮がされていると聞いたことがある。国際的な基準にあった避難所にしてほしい。男性 50 代
- 女性にしかわからないことのくみ上げは必要だと思います。男性 50 代
- 東日本大震災クラスの地震津波が発生すれば行政も機能不全に陥る可能性が大きいので、避難所においても最終的には「自分の身は自分で守る」心構えが必要と思う。男性 50 代
- お互いの立場を思いやある心があれば何事も解決できると思います。男性 60 代
- 異性の生活における不都合はわからないから、男女混合で意見交換する場が必要だと思う。男性 60 代

- 男女共に衛生面やプライバシー保護がある程度確保されていなければ時間と共にストレスはかなり増すと思う、スペース的にも人数的にもかなりの制約はあるとは思われるが何とかしたいと思っております。 男性 60 代
- いざという時では少し遅いような気がしているのはやはり、普段からのコミュニティがとても大事だと思います。まだ引っ越して来て約二年なるべく自分から声掛けをしています、まだ知らない人が多いと思われます。 男性 70 代以上
- どんな時でも男性が主導に成りがちですが女性にしかできない事が必ず有るので女性のリーダも沢山増やす様に普段から研修等に参加してもらおう。 男性 70 代以上
- 同一家族単位で別別に避難生活が出来れば良いと思います。 男性 70 代以上
- まず寝るところについて男女エリア別にしてほしいです。特に独り身かつ 20 代女性なので、男性とは怖くて寝られません。女性スタッフがいる、女性のためのエリアがほしい。また、お手洗いやお風呂も男女別にしてほしいです。怖いので。 女性 20 代
- 自分が神戸出身で、学生時代に阪神淡路大震災の学習や両親から話を聞いたりすることで、女性への性的被害や生理用品は贅沢品であったり生理についての理解が得られていないといった話を多く聞きました。男性女性関わらず、性別が違うという前提をしっかり理解できるようにしないと被害は減らないのかなと思います。特にトイレやお風呂であったり、避難所で周りとの壁がないことで着替えが難しかったり、睡眠時に何かあったらと不安に感じることも配慮が必要と感じます。 女性 20 代
- 性別において、困ることがあるのは8割女性側。生理とか体のこと、性のこと。でもトランスジェンダーの人たちへの心配は？性別に応じて、の配慮ではなく、一人一人に対しての配慮が必要かと。一世帯、一家族ごとに区切りを分けるとか。 女性 20 代
- 既婚者であれば男性が表に立ってくれるが、女性の一人暮らしだと意見が言いづらかったり性被害やセクハラターゲットになってしまいそうなので、気軽に相談会できる窓口や一人暮らし女性のコミュニティがあると良いと思った。 女性 30 代
- 気温や天候で厚着や薄着をする上で男性は場所を選ばずサッと着替えられるのに対し女性は着替える場所の確保から必要なので、そういう小さな積み重ねがストレスとして蓄積されると思う。トイレにしても、女性の方が混んだり生理等あれば行く回数も増えるので男性よりはトイレの数が多いと良い。 女性 30 代
- 性別での困りごとが出るのは着替え、トイレまた無防備になる就寝時だと思う。物理的にスペースを分けられるのが一番だが、簡易的な仕切りが一つあるだけでもストレスは違ってくると思う。 女性 40 代
- 着替え、洗濯。干すのも男性の目が気になる。トイレで、生理等、ゴミやにおいなど気を使う場面で、男女共用の場所しかないと思にくい。 女性 40 代
- 一人暮らしの女性が1人で避難所生活をする場合、一緒にいる家族もいないので不安を感じる。同じ部屋でもしっかり仕切られた空間があるとか、できれば男女別の部屋などもあれば嬉しい。家族で過ごす場合と单身と状況が変わるので。 女性 40 代
- 治安、着替えるためのブース、寝姿が丸見えにならないような仕切りがあれば、とりあえずは満足です。一言に女性と言っても、独身女性、既婚女性、子持ちの女性、若い方、高齢者、みんなニーズは違うと思うし、避難してからしか分からないこともどうしてもあります。男性も同様だと思います。困ったことが防災拠点から行政、国へ伝わり、必要とあらば被災していない地域から援助があるといいと思います。ですので、意見をまず受け取る方(避難所のリーダーでしょうか?)が「そんな些細な事、わがまま言うな」と独断でつぶさねないような研修などがあるとよいと思います。 女性 40 代
- 入浴やトイレ。他には、女性だけの世帯の場合、寝る際に近くに男性がいると不安な人がいるかもしれないので、聞き取りを行った上で女性だけが入れる居住空間が必要かもしれない。 女性 40 代
- ストレスが溜まって暴力的になることが増えるので、女性がパーソナルスペースを保てるように避難所がたくさんあってほしいです。 女性 50 代
- トイレは分けないといけないと思う。女性はどうしても生理がありその汚物を処理しないとイケない。それを男性の目に触れさせるのが嫌な人もいる。お風呂は時間別で男女は分けないといけないと思う。居住スペースも家族は家族単位でいいが、独身者は男女で分けたほうが良いと思う。 女性 50 代

- ボランティアに、避難した女子高生が暴行を受けたと、新聞記事で読んだ事がある。沢山の人が、いる場所は、色んな人がいるので、不安。きちんと役割分担して、リーダーシップをとれる人をおいて欲しいと、安心したいと思う。 女性 50代
- 鍵がかかっていない家に住んでいると同様の状態なので男性が女性のブースに突然来られるだけでも怖い。 女性 50代
- 自宅避難をしている人に水や食料、入浴を提供する。 女性 50代
- 隣で寝ている人がまったく知らない男性だったら怖いと思う。性的暴力も避難所であると聞いたことがあるので、そのような対象にならないように弱者を守るスペースが欲しい。 女性 50代
- 一番は若い女性の安全を守ることだと思う。精神的極限状態だと理性も失われたりするので、何が起こるか分からない怖さがある。私達年配者が周りを囲み、家族のように接して若い女性を守らなければいけない。 女性 60代
- 体調について同性のほうが相談しやすい。 女性 70代以上
- 家事などの生活経験が乏しい高齢男性が仕切る避難所には行きたくない。できれば女性に担ってもらいたい。それ以前に、行政は公助の義務から逃げるために自助共助を強調するべきではない。 女性 70代以上
- 性別云々のひまはないと思います。 女性 70代以上
- 男性からの威圧感は疲れるので女性に対応して欲しい。 女性 70代以上
- 長期になれば贅沢かも知れないが個々の空間を少しでも持てる時間が有ればいいと思う。 女性 70代以上

地域の防災活動の団体の認識

Q26 お住まいの地域では、どのような組織・団体が防災活動をおこなっていますか。(MA)

(%)

		回答者数 (n)	市役所・区役所・消防署等の公的機関が主催する防災活動	自治会・町内会を中心とした防災活動	マンション・団地単位を中心とした防災活動	子育て、まちづくりなど、防災以外のテーマを中心としたサークル・任意団体等による防災活動	その他	地域においてどのような組織・団体が防災活動を行っているか知らな	
全体		1,200	30.5	26.4	12.2	5.1	0.3	49.5	
性別	男性	600	32.8	27.8	12.7	5.7	0.2	47.5	
	女性	600	28.2	25.0	11.7	4.5	0.3	51.5	
年代別	男性	20代	100	29.0	31.0	19.0	8.0	0.0	50.0
		30代	100	28.0	24.0	17.0	12.0	0.0	49.0
		40代	100	35.0	28.0	10.0	9.0	1.0	49.0
		50代	100	25.0	25.0	9.0	0.0	0.0	53.0
		60代	100	39.0	22.0	8.0	2.0	0.0	47.0
		70代以上	100	41.0	37.0	13.0	3.0	0.0	37.0
	女性	20代	100	26.0	15.0	10.0	9.0	0.0	58.0
		30代	100	19.0	16.0	8.0	7.0	0.0	65.0
		40代	100	25.0	23.0	11.0	3.0	0.0	58.0
		50代	100	32.0	18.0	8.0	4.0	0.0	54.0
60代		100	25.0	33.0	15.0	3.0	1.0	44.0	
70代以上	100	42.0	45.0	18.0	1.0	1.0	30.0		

同居家族別	男性	単身世帯	208	28.8	17.3	10.1	5.3	0.0	60.6
		単身世帯以外	352	34.7	33.0	14.2	4.3	0.3	41.2
		子育て世帯	40	37.5	37.5	12.5	20.0	0.0	35.0
	女性	単身世帯	176	21.6	17.0	10.2	3.4	0.0	64.2
		単身世帯以外	374	31.0	30.2	12.0	4.3	0.5	45.5
		子育て世帯	50	30.0	14.0	14.0	10.0	0.0	52.0
住居別	男性	持ち家(一戸建て)	194	35.6	39.2	7.2	4.6	0.5	41.2
		持ち家(集合住宅)	121	32.2	27.3	31.4	5.0	0.0	38.0
		賃貸(集合住宅)	264	31.1	18.2	7.6	6.1	0.0	57.2
		その他	21	33.3	47.6	19.0	14.3	0.0	38.1
	女性	持ち家(一戸建て)	159	34.6	40.3	3.1	4.4	0.0	41.5
		持ち家(集合住宅)	159	30.8	30.2	28.3	5.0	0.6	39.6
		賃貸(集合住宅)	266	22.6	13.2	7.5	4.5	0.4	63.5
		その他	16	31.3	18.8	0.0	0.0	0.0	68.8
就業別	男性	有職	449	34.5	30.3	13.8	7.1	0.2	44.8
		無職	151	27.8	20.5	9.3	1.3	0.0	55.6
	女性	有職	335	27.8	19.7	9.6	7.2	0.0	54.9
		無職	265	28.7	31.7	14.3	1.1	0.8	47.2

- 地域で行われている防災活動の担っている組織・団体の認知を把握するために設定した。
- 市役所・区役所・消防署等の公的機関が主催する防災活動の認知が最も高く(男性 32.8%、女性 28.2%)、次いで自治会・町内会を中心とした防災活動(男性 27.8%、女性 25.0%)となっている。
- 防災活動の認知は年代が高くなるにつれ、認知の割合も高まる傾向にある。
- 単身世帯では「どのような組織・団体が防災活動を行っているか知らない」と回答した人の割合が男性では 60.6%、女性では 64.2%と高くなっており、住居別では賃貸(集合住宅)に住む男女が割合が高い(男性 57.2%、女性 63.5%)。就業者では男性は無職の方が割合が高く(55.6%)、女性は有職の方が割合が高い(54.9%)。

地域での防災活動の参加・参画状況

Q27【問 26にて住んでいる地域で①～④それぞれの活動が行われていると回答した人】

お住まいの地域で行われている防災活動について、あなたの参加・参画の状況を教えてください。(SA)

		回答者数(n)	参加・参画している					参加・参画していない
			積極的に参加・参画している	義務感から参加・参画している	つきあいで参加・参画している	機会があれば参加・参画している	参加・参画していない	
①市役所・区役所・消防署等の公的機関が主催する防災活動	全体	366	7.4	8.5	7.7	26.2	50.3	
	男性	197	8.6	11.2	11.2	27.4	41.6	
	女性	169	5.9	5.3	3.6	24.9	60.4	
②自治会・町内会を中心とした防災活動	全体	317	10.1	13.9	12.9	27.8	35.3	
	男性	167	10.2	19.2	18.0	27.5	25.1	
	女性	150	10.0	8.0	7.3	28.0	46.7	
③マンション・団地単位を中心とした防災活動	全体	146	13.7	17.8	13.0	28.1	27.4	
	男性	76	19.7	25.0	18.4	23.7	13.2	
	女性	70	7.1	10.0	7.1	32.9	42.9	
④子育て、まちづくりなど、防災以外のテーマを中心としたサークル・任意団体等による防災活動	全体	61	21.3	16.4	8.2	16.4	37.7	
	男性	34	26.5	26.5	5.9	14.7	26.5	
	女性	27	14.8	3.7	11.1	18.5	51.9	

- それぞれの組織・機関が行う防災活動への参加・参画度合を把握するために設定した。
- それぞれの組織・機関が防災活動をおこなっていることを認知していたとしても、参加・参画していない割合は高い。特に、②、③、④について男女差が大きく、男性の参加・参画している人の割合は女性の2倍程度となっている。

防災活動に参加・参画している理由

Q28 【問 27 で「参加・参画していない」以外が一つ以上回答した人】

地域における防災活動に参加・参画している理由をお答えください。(MA)

(%)

		回答者数 (n)	防災にはみんなの力が必要だと思うから	いざというときに連携できるように訓練が必要だと思うから	地域の方と関係性を作っておきたいから	誘われて断ることができなかったから	避難場所や備蓄品の場所を知っておきたかったから	楽しいから	すぐに行ける場所で活動しているから	知っている人が活動に参加しているから	家族等を守りたいから	その他
全体		368	58.4	49.5	36.1	10.6	31.0	5.7	16.0	8.7	17.4	1.4
性別	男性	214	58.4	49.5	38.8	13.1	27.1	8.4	18.7	8.9	15.0	0.5
	女性	154	58.4	49.4	32.5	7.1	36.4	1.9	12.3	8.4	20.8	2.6

- 防災活動に参加・参画している理由の把握のため設定した。
- 男女ともに最も回答の割合が高かったものは「防災にはみんなの力が必要だと思うから」となっており(男女とも 58.4%)、次いで「いざというときに連携できるように訓練が必要だと思うから」(男性 49.5%、女性 49.4%)となっている。
- 男女差がみられたのは、「避難場所や備蓄品の場所を知っておきたかったから」で女性の方が約 9 ポイント高い。「楽しいから」は男性の方が 6.5 ポイント、「すぐに行ける場所で活動しているから」は男性が 6.4 ポイント、「地域の方と関係性を作っておきたいから」は男性の方が 6.3 ポイントそれぞれ高くなっている。

防災活動に参加・参画した感想

Q29【問27で「参加・参画していない」以外が一つ以上回答した人】

防災活動に参加・参画してみてもどのような感じましたか。(MA)

(%)

	回答者数 (n)	感想							
		防災の大切さを知る機会となった	災害時に自らが取るべき行動について知る機会となった	災害時の防災組織の活動について知る機会となった	参加者が限られているので、より多くの人に参加できるようにするとよいと思った	内容が形式的であったりイベント化したりしていた	もっと本格的に防災活動をすべきと思った	住民・企業・ボランティアなど域全体の連携がとれていなかった	その他
全体	368	49.7	38.9	32.1	33.7	18.5	17.9	8.7	1.6
男性	214	50.5	40.7	35.0	34.6	21.0	21.0	7.9	1.4
女性	154	48.7	36.4	27.9	32.5	14.9	13.6	9.7	1.9

- 地域における防災活動に参加・参画したことがある人を対象に、どのように感じたかを把握する目的で設定した。
- 「防災の大切さを知る機会となった」と回答した人の割合が最も多く、男性で50.5%、女性で48.7%となっている。次いで「災害時に自らが取るべき行動について知る機会となった」となっており、男性40.7%、女性36.4%となっている。大きな男女差はみられなかった。
- 「内容が形式的であったり、イベント化したりしていた」「もっと本格的に防災活動をすべきと思った」の割合は男性が高く、それぞれ6.1ポイント、7.4ポイントの差異があった。

防災活動に参加・参画した感想

Q30【問27で「参加・参画していない」以外が一つ以上回答した人】

地域における防災活動に参加・参画していない理由をお答えください。(MA)

(%)

	回答者数 (n)	理由										
		活動時間がないから	活動についての情報が得られないから	きっかけがないから	一緒に活動する人がいないから	地域での関係性が希薄であるから	会場に行くのが大変だから	地域における防災活動は必要ないと思うから	面倒だから	その他		
全体	832	29.4	20.8	37.9	18.9	20.6	6.7	2.8	27.0	3.0		
性別	男性	386	28.5	17.4	33.2	17.1	18.4	6.0	3.6	33.9	3.6	
	女性	446	30.3	23.8	41.9	20.4	22.4	7.4	2.0	21.1	2.5	
年代別	男性	20代	60	31.7	11.7	40.0	10.0	16.7	6.7	1.7	33.3	3.3
		30代	62	45.2	14.5	33.9	14.5	11.3	11.3	4.8	40.3	3.2
		40代	73	28.8	16.4	21.9	21.9	17.8	2.7	6.8	35.6	4.1
		50代	71	39.4	16.9	29.6	15.5	23.9	9.9	2.8	31.0	5.6
		60代	64	15.6	28.1	37.5	18.8	21.9	0.0	1.6	32.8	0.0
		70代以上	56	7.1	16.1	39.3	21.4	17.9	5.4	3.6	30.4	5.4

	女性	20代	74	35.1	21.6	39.2	13.5	12.2	10.8	5.4	31.1	1.4	
		30代	77	39.0	23.4	41.6	20.8	22.1	7.8	2.6	26.0	2.6	
		40代	87	40.2	18.4	46.0	25.3	23.0	3.4	0.0	17.2	3.4	
		50代	83	26.5	26.5	47.0	24.1	32.5	7.2	1.2	19.3	0.0	
		60代	65	23.1	29.2	33.8	18.5	26.2	6.2	1.5	15.4	3.1	
		70代以上	60	11.7	25.0	41.7	18.3	16.7	10.0	1.7	16.7	5.0	
同居家族別	男性	単身世帯	163	22.1	17.8	34.4	22.1	17.2	4.9	3.1	36.2	3.7	
		単身世帯以外	205	31.7	15.6	31.2	13.2	19.0	6.8	3.9	31.7	3.9	
		子育て世帯	18	50.0	33.3	44.4	16.7	22.2	5.6	5.6	38.9	0.0	
	女性	単身世帯	153	31.4	21.6	40.5	26.8	20.9	6.5	2.0	23.5	2.6	
		単身世帯以外	253	27.7	24.9	43.1	17.0	24.1	8.7	2.0	20.6	2.0	
		子育て世帯	40	42.5	25.0	40.0	17.5	17.5	2.5	2.5	15.0	5.0	
住居別	男性	持ち家(一戸建て)	109	30.3	22.9	27.5	14.7	15.6	4.6	3.7	33.9	4.6	
		持ち家(集合住宅)	65	20.0	13.8	38.5	15.4	15.4	6.2	1.5	33.8	1.5	
		賃貸(集合住宅)	200	29.5	16.0	36.0	18.5	21.0	7.0	4.5	33.5	4.0	
		その他	12	41.7	8.3	8.3	25.0	16.7	0.0	0.0	41.7	0.0	
	女性	持ち家(一戸建て)	105	35.2	26.7	39.0	17.1	21.9	9.5	2.9	16.2	2.9	
		持ち家(集合住宅)	103	22.3	22.3	45.6	22.3	17.5	5.8	1.0	20.4	2.9	
		賃貸(集合住宅)	225	32.4	23.1	41.8	20.4	24.9	7.1	2.2	23.6	2.2	
		その他	13	15.4	23.1	38.5	30.8	23.1	7.7	0.0	23.1	0.0	
就労時間別	男性	有職者	30時間未満	33	18.2	18.2	45.5	18.2	18.2	3.0	0.0	45.5	3.0
			30～50時間未満	157	33.8	11.5	25.5	14.0	15.9	5.7	4.5	36.9	1.9
			50時間以上	72	50.0	27.8	38.9	23.6	27.8	5.6	1.4	18.1	2.8
			きまっていない	18	27.8	16.7	16.7	16.7	16.7	11.1	16.7	33.3	11.1
			TOTAL	280	35.7	16.8	30.7	17.1	19.3	5.7	3.9	32.9	2.9
		無職	106	9.4	18.9	39.6	17.0	16.0	6.6	2.8	36.8	5.7	
	女性	有職者	30時間未満	101	35.6	20.8	35.6	15.8	21.8	5.0	1.0	20.8	0.0
			30～50時間未満	114	42.1	22.8	43.9	20.2	25.4	4.4	2.6	19.3	1.8
			50時間以上	28	50.0	17.9	50.0	25.0	21.4	10.7	0.0	25.0	0.0
			きまっていない	12	16.7	8.3	33.3	8.3	0.0	16.7	0.0	33.3	0.0
			TOTAL	255	39.2	20.8	40.8	18.4	22.4	5.9	1.6	21.2	0.8
		無職	191	18.3	27.7	43.5	23.0	22.5	9.4	2.6	20.9	4.7	

- 地域における防災活動に参加・参画していない理由を把握するために設定した。
- 男性の最も高い割合の回答は「面倒だから」(33.9%)、次いで「きっかけがないから」(33.2%)、「活動時間がないから」(28.5%)と続く。女性の最も高い割合の回答は「きっかけがないから」(41.9%)、次いで「活動時間がないから」(30.3%)、「活動についての情報が得られないから」(23.8%)と続き、男女で上位回答が分かれた。
- 有職者は就業時間が多くなるほど「活動時間がないから」と回答する人の割合が高くなっている。

防災活動に参加・参画した感想

Q31【問27で全て「参加・参画していない」と回答した人】

何があれば地域における防災活動に参加しますか。(MA)

(%)

		回答者数(n)	ポスターやチラシの投函などで開催日時等の情報が得られる	広報紙等、市役所・区役所からのお知らせがある	地域の友人・知人から誘われる	家族から誘われる	内容に興味がある	参加すると何らかの特典がある	開催時間や会場が参加しやすい	その他	
全体		832	16.6	13.3	21.6	15.4	30.6	25.4	37.0	7.5	
性別	男性	386	15.0	14.5	14.5	11.4	29.3	25.9	35.2	10.4	
	女性	446	17.9	12.3	27.8	18.8	31.8	24.9	38.6	4.9	
年代別	男性	20代	60	15.0	8.3	8.3	13.3	36.7	33.3	28.3	6.7
		30代	62	14.5	12.9	16.1	12.9	30.6	37.1	38.7	8.1
		40代	73	20.5	11.0	15.1	12.3	30.1	23.3	31.5	8.2
		50代	71	9.9	11.3	16.9	7.0	25.4	29.6	31.0	18.3
		60代	64	12.5	18.8	12.5	9.4	29.7	18.8	45.3	9.4
		70代以上	56	17.9	26.8	17.9	14.3	23.2	12.5	37.5	10.7
	女性	20代	74	8.1	2.7	31.1	24.3	27.0	40.5	29.7	4.1
		30代	77	15.6	13.0	29.9	19.5	39.0	29.9	23.4	5.2
		40代	87	20.7	16.1	26.4	23.0	44.8	27.6	40.2	5.7
		50代	83	21.7	13.3	28.9	19.3	32.5	21.7	47.0	2.4
		60代	65	27.7	20.0	23.1	10.8	27.7	20.0	41.5	3.1
		70代以上	60	13.3	8.3	26.7	13.3	13.3	5.0	51.7	10.0
同居家族別	男性	単身世帯	163	15.3	13.5	16.6	6.1	28.2	24.5	35.6	14.1
		単身世帯以外	205	15.6	15.6	13.2	14.1	28.3	27.3	35.1	8.3
		子育て世帯	18	5.6	11.1	11.1	27.8	50.0	22.2	33.3	0.0
	女性	単身世帯	153	14.4	9.8	26.8	15.0	32.0	22.2	34.6	5.2
		単身世帯以外	253	19.8	14.2	26.5	21.7	33.2	26.5	41.1	4.7
		子育て世帯	40	20.0	10.0	40.0	15.0	22.5	25.0	37.5	5.0

- 防災活動に参加する理由やきっかけを把握するために設定した。
- 男性の最も高い割合の回答は「開催時間や会場が参加しやすい」(35.2%)、次いで「内容に興味がある」(29.3%)、「参加すると何らかの特典がある」(25.9%)となっている。女性の最も高い割合の回答は、「開催時間や会場が参加しやすい」(38.6%)、次いで「内容に興味がある」(31.8%)、「地域の友人・知人から誘われる」(27.8%)と続いている。
- 男女で最も差異がみられるのは「地域の友人・知人から誘われる」(男性 14.5%・女性 27.8%)となっており、その差は 7.3 ポイントとなった。

防災活動に参加・参画した感想

Q32 次のような地域防災活動において男女の関わりに偏りがあると思いますか。(MA)

〈子ども・親子・高齢者などテーマごとの防災活動〉

(%)

			回答者数 (n)	男性が主となって活動	どちらかと言えば男性が主となって活動	平等に活動	どちらかと言えば女性が主となって活動	女性が主となって活動	
		<div style="display: flex; flex-direction: column; gap: 5px;"> <div> :全体より10ポイント以上</div> <div> :全体より5ポイント以上</div> <div> :全体より5ポイント以下</div> <div> :全体より10ポイント以下</div> </div>							
全体			1,200	7.3	17.5	56.0	16.3	3.0	
性別	男性		600	8.0	18.8	59.3	11.2	2.7	
	女性		600	6.5	16.2	52.7	21.3	3.3	
年代別	男性	20代	100	12.0	22.0	55.0	9.0	2.0	
		30代	100	8.0	23.0	60.0	8.0	1.0	
		40代	100	7.0	19.0	54.0	15.0	5.0	
		50代	100	4.0	11.0	69.0	10.0	6.0	
		60代	100	9.0	14.0	60.0	15.0	2.0	
		70代以上	100	8.0	24.0	58.0	10.0	0.0	
	女性	20代	100	8.0	16.0	47.0	23.0	6.0	
		30代	100	5.0	12.0	52.0	28.0	3.0	
		40代	100	1.0	9.0	64.0	21.0	5.0	
		50代	100	7.0	15.0	53.0	22.0	3.0	
		60代	100	9.0	21.0	50.0	18.0	2.0	
		70代以上	100	9.0	24.0	50.0	16.0	1.0	
同居家族別	男性	単身世帯	208	7.2	13.5	65.9	9.6	3.8	
		単身世帯以外	352	8.2	20.7	57.1	11.6	2.3	
		子育て世帯	40	10.0	30.0	45.0	15.0	0.0	
	女性	単身世帯	176	6.3	10.2	55.7	21.0	6.8	
		単身世帯以外	374	6.4	19.5	50.5	21.7	1.9	
		子育て世帯	50	8.0	12.0	58.0	20.0	2.0	

- テーマごとの活動について男女のどちらが主となって活動しているかの認識を把握するために設定した。
- 男女ともに「平等に活動」と回答した人の割合が最も高く、男性は59.3%、女性は52.7%となっている。
- どちらの性別が主となっているかについて、男性は「どちらかと言えば男性」と回答する人の割合が高く、女性は「どちらかと言えば女性」と回答する人の割合が高い。

〈防災食のレシピづくりや試食〉

(%)

		回答者数 (n)	男性が主となって活動	どちらかと言えば男性が主となって活動	平等に活動	どちらかと言えば女性が主となって活動	女性が主となって活動	
全体		1,200	1.5	4.1	40.8	42.1	11.5	
性別	男性	600	2.0	6.2	47.0	35.5	9.3	
	女性	600	1.0	2.0	34.7	48.7	13.7	
年代別	男性	20代	100	3.0	13.0	49.0	29.0	6.0
		30代	100	4.0	7.0	56.0	25.0	8.0
		40代	100	4.0	7.0	41.0	39.0	9.0
		50代	100	0.0	2.0	55.0	30.0	13.0
		60代	100	1.0	5.0	48.0	36.0	10.0
		70代以上	100	0.0	3.0	33.0	54.0	10.0
	女性	20代	100	2.0	4.0	30.0	46.0	18.0
		30代	100	2.0	0.0	32.0	50.0	16.0
		40代	100	1.0	1.0	39.0	46.0	13.0
		50代	100	0.0	2.0	36.0	50.0	12.0
		60代	100	1.0	1.0	33.0	51.0	14.0
		70代以上	100	0.0	4.0	38.0	49.0	9.0
同居家族別	男性	単身世帯	208	1.0	7.7	46.2	34.1	11.1
		単身世帯以外	352	2.8	4.5	46.6	37.2	8.8
		子育て世帯	40	0.0	12.5	55.0	27.5	5.0
	女性	単身世帯	176	1.1	1.1	32.4	45.5	19.9
		単身世帯以外	374	1.1	2.7	34.8	50.5	11.0
		子育て世帯	50	0.0	0.0	42.0	46.0	12.0

- 男女のどちらが主となって活動しているかの認識を把握するために設定した。
- 男性の最も高い割合の回答は「平等に活動」(47.3%)となっているが、女性は「どちらかと言えば女性が主となって活動」(48.7%)と、男女で逆となっている。

〈防災グッズづくりや防災クイズなどの企画・実施〉

(%)

				男性が主となって活動	どちらかと言えば男性が主となって活動	平等に活動	どちらかと言えば女性が主となって活動	女性が主となって活動	
		<div style="display: flex; flex-direction: column; gap: 5px;"> <div> : 全体より10ポイント以上</div> <div> : 全体より5ポイント以上</div> <div> : 全体より5ポイント以下</div> <div> : 全体より10ポイント以下</div> </div>	回答者数 (n)						
全体			1,200	4.1	19.3	60.6	13.6	2.5	
性別	男性		600	4.2	20.3	63.0	9.7	2.8	
	女性		600	4.0	18.2	58.2	17.5	2.2	
年代別	男性	20代	100	7.0	21.0	61.0	9.0	2.0	
		30代	100	6.0	23.0	60.0	6.0	5.0	
		40代	100	5.0	21.0	59.0	12.0	3.0	
		50代	100	0.0	16.0	70.0	8.0	6.0	
		60代	100	5.0	17.0	65.0	12.0	1.0	
		70代以上	100	2.0	24.0	63.0	11.0	0.0	
	女性	20代	100	6.0	25.0	55.0	11.0	3.0	
		30代	100	4.0	17.0	55.0	20.0	4.0	
		40代	100	5.0	12.0	59.0	23.0	1.0	
		50代	100	1.0	21.0	57.0	19.0	2.0	
		60代	100	5.0	15.0	61.0	16.0	3.0	
		70代以上	100	3.0	19.0	62.0	16.0	0.0	
同居家族別	男性	単身世帯	208	5.3	20.2	62.5	7.7	4.3	
		単身世帯以外	352	3.4	19.9	63.9	11.4	1.4	
		子育て世帯	40	5.0	25.0	57.5	5.0	7.5	
	女性	単身世帯	176	5.1	15.3	58.5	16.5	4.5	
		単身世帯以外	374	3.7	20.1	56.7	18.2	1.3	
		子育て世帯	50	2.0	14.0	68.0	16.0	0.0	

- 男女のどちらが主となって活動しているかの認識を把握するために設定した。
- 男女ともに最も高い割合の回答は「平等に活動」となっており、男性は63.0%、女性は58.2%となっている。
- どちらの性別が主となっているかについて、男性は「どちらかと言えば男性」と回答し、女性は男性・女性ほぼ同割合となっている。

〈防災訓練の企画や実施〉

(%)

			回答者数 (n)	男性が主となって活動	どちらかと言えば男性が主となって活動	平等に活動	どちらかと言えば女性が主となって活動	女性が主となって活動	
		<div style="display: flex; flex-direction: column; gap: 5px;"> <div> :全体より10ポイント以上</div> <div> :全体より5ポイント以上</div> <div> :全体より5ポイント以下</div> <div> :全体より10ポイント以下</div> </div>							
全体			1,200	10.8	34.6	49.1	4.3	1.2	
性別	男性		600	9.2	30.8	53.8	4.5	1.7	
	女性		600	12.5	38.3	44.3	4.2	0.7	
年代別	男性	20代	100	9.0	28.0	52.0	8.0	3.0	
		30代	100	10.0	26.0	55.0	7.0	2.0	
		40代	100	14.0	33.0	45.0	7.0	1.0	
		50代	100	6.0	29.0	60.0	2.0	3.0	
		60代	100	11.0	31.0	55.0	2.0	1.0	
		70代以上	100	5.0	38.0	56.0	1.0	0.0	
	女性	20代	100	20.0	32.0	44.0	2.0	2.0	
		30代	100	11.0	43.0	39.0	6.0	1.0	
		40代	100	12.0	31.0	48.0	9.0	0.0	
		50代	100	10.0	39.0	48.0	3.0	0.0	
		60代	100	13.0	42.0	41.0	4.0	0.0	
		70代以上	100	9.0	43.0	46.0	1.0	1.0	
同居家族別	男性	単身世帯	208	8.7	31.7	52.9	3.4	3.4	
		単身世帯以外	352	9.1	31.0	54.0	5.1	0.9	
		子育て世帯	40	12.5	25.0	57.5	5.0	0.0	
	女性	単身世帯	176	15.9	37.5	42.0	3.4	1.1	
		単身世帯以外	374	11.0	39.3	44.9	4.3	0.5	
		子育て世帯	50	12.0	34.0	48.0	6.0	0.0	

- 男女のどちらが主となって活動しているかの認識を把握するために設定した。
- 男女ともに最も高い割合の回答は「平等に活動」となっており、男性は 53.8%、女性は 44.3%となっている。
- どちらの性別が主となっているかについて、男女ともに「どちらかと言えば男性」と回答しており、男性は 30.8%、女性は 38.3%となっている。

〈避難所の運営〉

(%)

		回答者数 (n)	男性が主となって活動	どちらかと言えば男性が主となって活動	平等に活動	どちらかと言えば女性が主となって活動	女性が主となって活動	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> :全体より10ポイント以上 :全体より5ポイント以上 :全体より5ポイント以下 :全体より10ポイント以下 </div>								
全体		1,200	12.3	34.3	47.4	4.8	1.3	
性別	男性	600	10.7	28.2	53.5	5.7	2.0	
	女性	600	13.8	40.3	41.3	4.0	0.5	
年代別	男性	20代	100	10.0	27.0	52.0	7.0	4.0
		30代	100	14.0	20.0	53.0	12.0	1.0
		40代	100	15.0	30.0	46.0	7.0	2.0
		50代	100	9.0	29.0	55.0	4.0	3.0
		60代	100	9.0	29.0	59.0	1.0	2.0
		70代以上	100	7.0	34.0	56.0	3.0	0.0
	女性	20代	100	18.0	43.0	33.0	3.0	3.0
		30代	100	17.0	36.0	44.0	3.0	0.0
		40代	100	13.0	36.0	45.0	6.0	0.0
		50代	100	10.0	41.0	45.0	4.0	0.0
		60代	100	15.0	44.0	37.0	4.0	0.0
		70代以上	100	10.0	42.0	44.0	4.0	0.0
同居家族別	男性	単身世帯	208	10.1	29.8	52.4	5.3	2.4
		単身世帯以外	352	10.8	27.6	54.5	5.1	2.0
		子育て世帯	40	12.5	25.0	50.0	12.5	0.0
	女性	単身世帯	176	15.3	40.9	37.5	5.7	0.6
		単身世帯以外	374	12.8	40.9	42.5	3.5	0.3
		子育て世帯	50	16.0	34.0	46.0	2.0	2.0

- 男女のどちらが主となって活動しているかの認識を把握するために設定した。
- 男女ともに最も高い割合の回答は「平等に活動」となっているが、男性は53.5%、女性は41.3%と差異が見られる。「どちらかと言えば男性が主となって活動」と回答した男性は28.2%に対し、女性は40.3%と12.1ポイントの差異がある。

〈避難所のルールの策定〉

(%)

		回答者数 (n)	男性が主となって活動	どちらかと言えば男性が主となって活動	平等に活動	どちらかと言えば女性が主となって活動	女性が主となって活動	
<div style="display: flex; flex-direction: column; gap: 5px;"> <div> :全体より10ポイント以上</div> <div> :全体より5ポイント以上</div> <div> :全体より5ポイント以下</div> <div> :全体より10ポイント以下</div> </div>								
全体		1,200	7.0	27.3	59.5	4.9	1.3	
性別	男性	600	6.2	23.7	64.2	4.5	1.5	
	女性	600	7.8	31.0	54.8	5.3	1.0	
年代別	男性	20代	100	6.0	27.0	62.0	4.0	1.0
		30代	100	10.0	23.0	57.0	7.0	3.0
		40代	100	10.0	28.0	55.0	6.0	1.0
		50代	100	6.0	17.0	69.0	5.0	3.0
		60代	100	5.0	25.0	67.0	2.0	1.0
		70代以上	100	0.0	22.0	75.0	3.0	0.0
	女性	20代	100	11.0	33.0	48.0	4.0	4.0
		30代	100	8.0	32.0	55.0	5.0	0.0
		40代	100	6.0	31.0	53.0	10.0	0.0
		50代	100	6.0	32.0	54.0	6.0	2.0
		60代	100	9.0	28.0	59.0	4.0	0.0
		70代以上	100	7.0	30.0	60.0	3.0	0.0
同居家族別	男性	単身世帯	208	5.3	23.1	65.4	3.8	2.4
		単身世帯以外	352	6.3	23.3	64.8	5.1	0.6
		子育て世帯	40	10.0	30.0	52.5	2.5	5.0
	女性	単身世帯	176	9.7	30.1	54.0	4.5	1.7
		単身世帯以外	374	7.8	31.6	54.3	5.9	0.5
		子育て世帯	50	2.0	30.0	62.0	4.0	2.0

- 男女のどちらが主となって活動しているかの認識を把握するために設定した。
- 男女ともに最も高い割合の回答は「平等に活動」となっているが、男性は64.2%、女性は54.8%と9.4ポイントの差異が見られる。「どちらかと言えば男性が主となって活動」と回答した男性は23.7%に対し、女性は31.0%と7.3ポイントの差異がある。

〈避難所の部屋割・レイアウト計画〉

(%)

		回答者数 (n)	男性が主となって活動	どちらかと言えば男性が主となって活動	平等に活動	どちらかと言えば女性が主となって活動	女性が主となって活動	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> : 全体より10ポイント以上 : 全体より5ポイント以上 : 全体より5ポイント以下 : 全体より10ポイント以下 </div>								
全体		1,200	5.8	20.6	60.7	10.7	2.3	
性別	男性	600	4.8	17.2	64.7	10.2	3.2	
	女性	600	6.8	24.0	56.7	11.2	1.3	
年代別	男性	20代	100	5.0	17.0	61.0	13.0	4.0
		30代	100	7.0	16.0	64.0	10.0	3.0
		40代	100	9.0	14.0	59.0	13.0	5.0
		50代	100	2.0	17.0	70.0	8.0	3.0
		60代	100	4.0	17.0	66.0	10.0	3.0
		70代以上	100	2.0	22.0	68.0	7.0	1.0
	女性	20代	100	9.0	19.0	55.0	15.0	2.0
		30代	100	7.0	25.0	55.0	11.0	2.0
		40代	100	6.0	21.0	57.0	15.0	1.0
		50代	100	5.0	29.0	53.0	12.0	1.0
		60代	100	6.0	25.0	59.0	9.0	1.0
		70代以上	100	8.0	25.0	61.0	5.0	1.0
同居家族別	男性	単身世帯	208	4.3	16.8	63.5	11.5	3.8
		単身世帯以外	352	4.8	17.3	66.2	9.1	2.6
		子育て世帯	40	7.5	17.5	57.5	12.5	5.0
	女性	単身世帯	176	6.8	24.4	54.5	12.5	1.7
		単身世帯以外	374	7.2	25.4	56.1	9.9	1.3
		子育て世帯	50	4.0	12.0	68.0	16.0	0.0

- 男女のどちらが主となって活動しているかの認識を把握するために設定した。
- 男女ともに最も高い割合の回答は「平等に活動」となっているが、男性は64.7%、女性は56.7%と8ポイントの差異が見られる。「どちらかと言えば男性が主となって活動」と回答した男性は17.2%に対し、女性は24.0%と6.8ポイントの差異がある。

〈被災後の復興計画の検討〉

(%)

			回答者数 (n)	男性が主となって活動	どちらかと言えば男性が主となって活動	平等に活動	どちらかと言えば女性が主となって活動	女性が主となって活動	
		<div style="display: flex; flex-direction: column; gap: 5px;"> <div> : 全体より10ポイント以上</div> <div> : 全体より5ポイント以上</div> <div> : 全体より5ポイント以下</div> <div> : 全体より10ポイント以下</div> </div>							
全体			1,200	9.8	30.8	54.0	4.2	1.2	
性別	男性		600	8.5	26.8	58.3	4.8	1.5	
	女性		600	11.2	34.8	49.7	3.5	0.8	
年代別	男性	20代	100	8.0	20.0	62.0	8.0	2.0	
		30代	100	10.0	24.0	54.0	10.0	2.0	
		40代	100	12.0	29.0	52.0	6.0	1.0	
		50代	100	7.0	29.0	60.0	2.0	2.0	
		60代	100	8.0	30.0	59.0	1.0	2.0	
		70代以上	100	6.0	29.0	63.0	2.0	0.0	
	女性	20代	100	13.0	28.0	52.0	6.0	1.0	
		30代	100	11.0	33.0	49.0	6.0	1.0	
		40代	100	10.0	32.0	54.0	3.0	1.0	
		50代	100	12.0	39.0	46.0	1.0	2.0	
		60代	100	9.0	36.0	50.0	5.0	0.0	
		70代以上	100	12.0	41.0	47.0	0.0	0.0	
同居家族別	男性	単身世帯	208	7.7	26.4	58.7	4.8	2.4	
		単身世帯以外	352	8.0	28.4	58.5	4.0	1.1	
		子育て世帯	40	17.5	15.0	55.0	12.5	0.0	
	女性	単身世帯	176	13.6	36.9	44.9	2.8	1.7	
		単身世帯以外	374	10.7	34.2	50.8	4.0	0.3	
		子育て世帯	50	6.0	32.0	58.0	2.0	2.0	

- 男女のどちらが主となって活動しているかの認識を把握するために設定した。
- 男女ともに最も高い割合の回答は「平等に活動」となっているが、男性は58.3%、女性は49.7%と8.6ポイントの差異が見られる。「どちらかと言えば男性が主となって活動」と回答した男性は26.8%に対し、女性は34.8%と8ポイントの差異がある。

〈地区防災計画の策定〉

(%)

			回答者数 (n)	男性が主となって活動	どちらかと言えば男性が主となって活動	平等に活動	どちらかと言えば女性が主となって活動	女性が主となって活動	
		<div style="display: flex; flex-direction: column; gap: 5px;"> <div> :全体より10ポイント以上</div> <div> :全体より5ポイント以上</div> <div> :全体より5ポイント以下</div> <div> :全体より10ポイント以下</div> </div>							
全体			1,200	10.8	33.2	52.2	3.3	0.7	
性別	男性		600	9.5	28.7	57.0	3.8	1.0	
	女性		600	12.0	37.7	47.3	2.7	0.3	
年代別	男性	20代	100	7.0	28.0	58.0	7.0	0.0	
		30代	100	14.0	25.0	53.0	6.0	2.0	
		40代	100	11.0	30.0	53.0	6.0	0.0	
		50代	100	8.0	28.0	61.0	1.0	2.0	
		60代	100	9.0	33.0	54.0	2.0	2.0	
		70代以上	100	8.0	28.0	63.0	1.0	0.0	
	女性	20代	100	15.0	31.0	48.0	5.0	1.0	
		30代	100	10.0	37.0	49.0	4.0	0.0	
		40代	100	10.0	32.0	54.0	4.0	0.0	
		50代	100	10.0	44.0	44.0	1.0	1.0	
		60代	100	12.0	39.0	48.0	1.0	0.0	
		70代以上	100	15.0	43.0	41.0	1.0	0.0	
同居家族別	男性	単身世帯	208	7.7	29.3	57.2	3.8	1.9	
		単身世帯以外	352	9.7	29.3	57.4	3.1	0.6	
		子育て世帯	40	17.5	20.0	52.5	10.0	0.0	
	女性	単身世帯	176	15.3	39.2	42.0	2.3	1.1	
		単身世帯以外	374	11.5	37.2	48.4	2.9	0.0	
		子育て世帯	50	4.0	36.0	58.0	2.0	0.0	

- 男女のどちらが主となって活動しているかの認識を把握するために設定した。
- 男女ともに最も高い割合の回答は「平等に活動」となっているが、男性は 57.0%、女性は 47.3%と 9.7ポイントの差異が見られる。「どちらかと言えば男性が主となって活動」と回答した男性は 28.7%に対し、女性は 37.7%と9ポイントの差異がある。

防災に関する施策で重要だと思うもの

Q34 大阪市では、男女共同参画の視点からの防災・復興の取組を推進しています。男女共同参画の視点からの防災に関する施策であなたが重要だと思うものをお答えください。(MA)

- 結局男性が災害時は中心にならなければならない感じがすると思う。 男性 20代
- 参加していないので詳しいことは分かりませんが基本的にどちらの意見も通ることが大事だと思います。男女だからというより得意不得意が活かせるようになれば助け合いになると思いました。 男性 20代
- 重労働が生物的にも男性の負担が大きくなり、女性は居住区内の整理や報連相や事務処理を主に担当することになると思います。 男性 20代
- 復興などの建設関係は男性が、料理などの生活面は女性の方が本能的に適切な判断が出来ると感じたため。 男性 20代

- 女性のほうがきめ細やかなことに関して気が付くと思うため、防災計画は女性も積極的に参加をしたほうが良いと感じる。特に防災食などのアイデアは女性のほうが細かいとこまで行き届いているイメージである。 男性 30代
- 女性の方が発言しにくい気がする。 男性 30代
- 性別による身体能力や志向の違いによって生じる役割分担。 仕事や家庭、育児などの実務による拘束。 男性 30代
- 性別の違いから生じる区別を差別と置き換える人たちが一定程度いるために物事がうまく進まない点。 男性 40代
- 地域に限定したことではないがやはり男性の意見が多く採用され女性の声が反映されないように思える。男性が真摯に女性を理解する必要があるがわからない部分は女性の意見を積極的に採用したほうがうまくいくだろう。 男性 40代
- 仕事勤めの方は、参加できない、したくない人が多いため、近所付き合いでは、主婦参加が多い。防災活動も、その延長である。 男性 50代
- 女性はリーダーシップを取りたがらず、男性の下請けに回りたがるし、男性はふんぞり返って指示を出したがるが手を動かさない、特に高齢者層。 男性 50代
- 性別よりも世代間のギャップが心配。 男性 50代
- 男女別で訓練などに参加する人の性別に隔たりがあり、男性の方が参加人数が多いイメージがある。男女同人数での参加が望ましい。 男性 50代
- 高齢の方が多いため男性が幅を利かせている。 男性 60代
- 男性が決めているルールのために女性が不便を感じる。 男性 60代
- 防災活動に性別は関係無いと思います。もし何かの影響しているのであれば改善見直しをして行かなくてはならないと思う。 男性 60代
- ほとんどが男性役員である。女性は参加する人がいないのか、役員に女性を選ばないのか、分からないがもっと男女の区別無く選べたらいいと思う。 男性 70代以上
- 女性の判断力と決断力の未熟、全てに対応が遅いように思う。 男性 70代以上
- 女性目線がわからないので、女性の意見を反映することが大事。 男性 70代以上
- 力仕事は男がやるべきですが、高齢者が多く住んでいるので男女別ではなくお互いがやれることを進めていくべきだと思います。 男性 70代以上
- いつもなんでもすべて男性が引っ張っていること。なんでも男性の意見が正しいみたいなどころがある。 女性 20代
- 女性は防災活動により一人暮らしが明らかになったり近所との人間関係でトラブルが起きたら怖いと思う。 女性 20代
- 乳児への関心(子が感じるストレス、食事、排泄、泣き声への対応速度) 全てにおいて女性(母)だけが気にして心配してる気がする。言葉にするのが難しいのですが、「協力」ではなく「察する」努力を男性にしてほしい。もっと常に考えてほしい。 女性 20代
- 避難にかかる想定時間、健康な男性目線だと、女性や子供高齢者には足りないのではないのでしょうか。 女性 20代
- よく知らないので何とも言えないが、知らないということは目にする機会がないということなので、女性の興味を引く試みは行われていないということだと思う。 女性 30代
- 子育て世帯の多い地域なので防災活動に参加する事自体、子供の面倒を見る母親の参加が明らかに少ない。 女性 30代
- 女性がおもてだって活動しているイメージがそもそもない。 女性 30代

- 女性は妊娠や子育てで参加出来ない期間が一定あると思われるので、男性の参加、意見が多くなるのではないかと思います。女性一人、女性が子どもを抱えてでは出来ないことが避難や防災対策の場面では多く出てくると思います。女性 30代
- 活動で男女が偏っていてもよいと思っています。男性ばかりだと女性のことを、女性ばかりだと男性をないがしろにするわけではなく、他人をないがしろにする人が悪いだけです。性別関係なく、困っていることを訴えている人の話に耳を傾けられる方が仕切っていただければよいです。女性 40代
- 女性の方が近所との繋がりが深くありそうなイメージなので、情報伝達、活動を積極的にされてそうですが、偏りがあるように思います。女性 40代
- 男性目線と女性目線では考え方が違いすぎるため、男性は救護や力仕事にし、女性は軽作業や心のケアや配布などに力を入れるべきだと思います。女性 40代
- この地域は高齢者が大半で、おじいちゃんが活動している姿しか見ていない 女性 50代
- 元消防士さんとかがいいたらやっぱり頼ってしまうので 男性中心の防災活動になっている。公平なリーダーシップを取ってくださる方がリーダーとして仕切ってくれるのならお任せしたい。女性の生理用品等は備蓄していませんと聞いているので、いざ避難所へ避難しても女性は大変だと思いました。そんな方のケアをする女性リーダーも居ないといけないなあと思っています。女性 50代
- 女性の細やかな配慮がない。制度やルールを整えば男性はそれでいいだろうと思うが不安な中それだけではしんどいと感じている人も多いのでそういう方に耳を傾ける姿勢が男性にも求められると思う 女性 50代
- 地元のボランティア活動している人は、古くから住んでいる住民が中心となると思うので、男性が多いと思う。女性 50代
- 日ごろの地域における防災活動に関しては、月曜日から金曜日の活動が多いようなので、女性の参加者のほうがとても多いと思いますが、役所との連携や決定事項に関しては、男性のほうが多く細かな実際の生活につながるものが、ずれているときがあるのではないかと感じたことがありました。女性 50代
- 日本人はまだ男性が優位性があると根本的には思っていて、女性は何かすると出しゃばり扱いされると女性自身も思っているので、リーダー的な物は極力やりたがらない傾向はあると思う、人の意識を気にしてしまう。女性 50代
- 防災活動で主に活動し取り決めをする性別の方が当然のように優先することがあるとすると、その他の性別の方には不具合が生じることがあるかもしれないと思います。話し合いが欠かせないと思います。女性 50代
- 高齢男性が中心となっている。他者の意見を聞いたり取り入れたりしないパターンリズムを見かける。女性 60代
- 年齢層によると今置かれている生活や環境も違うので地域防災において専門的にお話ができて、対応できるくらいの人材が男女必要だと思います。女性 60代
- 力仕事はやはり男性であるし、調理は女性と分けられることが少し疑問であるが、性別よりも自分も含め高齢者が多いことに驚く。いざというとき役に立てるのか??と心配になる。女性 60代
- 企画がたぶん男性と思うのですが、マンションの管理組合で男女比率を同じにして防災活動をしていけば両方の意見が出ると思います。女性 70代以上
- 防災活動にかぎらず、地域活動のトップは昭和の男性ばかり。熱心さが空回りして女性や若い層にアプローチできない。そもそも戸建ての多い地区とマンションの多い地区で同じ活動は無理だと思う。個人的には、マンションの管理組合が機能していれば、地域の活動の必要性を感じない。女性 70代
- 年配者の活動に感謝していますが若い人を招き易い活動の場にしてほしい。女性 70代

防災に関する施策で重要だと思うもの

Q34 大阪市では、男女共同参画の視点からの防災・復興の取組を推進しています。男女共同参画の視点からの防災に関する施策であるが重要だと思うものをお答えください。(MA)

(%)

		回答者数 (n)	防災に関する会議における委員の男女比率を同程度にする	地域防災活動、特に避難所運営などに男性・女性それぞれの視点を入れることやそのためにはそれぞれの参画が必要であることなどについて、地域を対象としたセミナーや防災訓練等の場を通じて情報提供・啓発を行う	地域防災活動の企画・実施に中心的な役割を果たす担い手としての男性・女性それぞれの参画の重要性について啓発を行う	男性・女性それぞれの防災士や防災リーダーの育成を推進する	平時からの地域の防災を担う人材育成の重要性や男女共同参画の視点をふまえた防災・減災の必要性について啓発を行う	学校教育にて防災に関する授業を行う	その他	
全体		1,200	38.2	33.8	23.5	32.7	20.4	30.1	2.7	
性別	男性	600	41.0	30.8	22.0	28.8	17.3	27.8	4.0	
	女性	600	35.3	36.8	25.0	36.5	23.5	32.3	1.3	
年代別	男性	20代	100	38.0	31.0	21.0	23.0	13.0	27.0	3.0
		30代	100	35.0	38.0	18.0	21.0	18.0	32.0	6.0
		40代	100	42.0	29.0	22.0	28.0	19.0	33.0	1.0
		50代	100	41.0	23.0	15.0	40.0	15.0	26.0	8.0
		60代	100	45.0	30.0	28.0	29.0	16.0	24.0	2.0
	70代以上	100	45.0	34.0	28.0	32.0	23.0	25.0	4.0	
	女性	20代	100	34.0	29.0	18.0	30.0	19.0	44.0	0.0
		30代	100	33.0	37.0	28.0	43.0	22.0	24.0	1.0
		40代	100	37.0	36.0	27.0	34.0	19.0	34.0	0.0
		50代	100	40.0	42.0	24.0	37.0	24.0	33.0	1.0
60代		100	27.0	33.0	27.0	39.0	34.0	35.0	1.0	
70代以上	100	41.0	44.0	26.0	36.0	23.0	24.0	5.0		
同居家族別	男性	単身世帯	208	36.5	24.5	20.2	29.3	15.4	27.9	5.8
		単身世帯以外	352	44.3	32.4	22.4	28.7	18.5	27.6	3.4
		子育て世帯	40	35.0	50.0	27.5	27.5	17.5	30.0	0.0
	女性	単身世帯	176	33.5	33.5	25.0	35.8	25.6	31.3	2.3
		単身世帯以外	374	36.4	38.2	25.1	36.9	23.0	33.2	1.1
		子育て世帯	50	34.0	38.0	24.0	36.0	20.0	30.0	0.0

- 防災施策の重要性の認識について把握するために設定した。
- 男性の最も高い割合の回答は「防災に関する会議における委員の男女比率を同程度にする」(41.0%)となっており、他項目よりも10%程度高い。
- 女性の最も高い割合の回答は「地域を対象としたセミナーや防災訓練等の場を通じて情報提供・啓発を行う」(36.8%)だが、「男性・女性それぞれの防災士や防災リーダーの育成を推進する」(36.5%)、「防災に関する会議における委員の男女比率を同程度にする」(35.3%)も同程度の割合となっている。

4. 防災に関する情報について

防災に関する知識や情報の入手の際に活用しているもの

Q35 あなたは防災に関する知識や情報を入手するために、どのようなものを積極的に活用していますか。(MA)

(%)

		回答者数 (n)	テレビやラジオ	新聞、雑誌、書籍、パンフレット	防災に関する展示会・講演会・セミナー・シンポジウム等による発信	防災に関する対策やイベント、災害時の情報など 防災に関する情報が集約されたホームページ	防災に関する対策やイベント、災害時の情報など 防災に関する情報が集約された防災アプリ	SNS	防災に関する対策やイベント、災害時の情報など 防災に関する情報が集約された情報がプッシュ型で届く	地域の会合や知人・友人での口コミ	その他	特になし
全体		1,200	59.6	23.1	9.8	20.6	13.8	13.3	12.5	0.9	19.6	
性別	男性	600	57.5	23.7	13.2	22.3	13.7	12.0	10.2	0.7	21.7	
	女性	600	61.7	22.5	6.5	18.8	14.0	14.5	14.8	1.2	17.5	
年代別	男性	20代	100	43.0	23.0	19.0	22.0	14.0	17.0	7.0	1.0	30.0
		30代	100	46.0	21.0	16.0	35.0	20.0	18.0	7.0	0.0	27.0
		40代	100	58.0	18.0	11.0	28.0	17.0	13.0	11.0	1.0	17.0
		50代	100	58.0	21.0	11.0	17.0	10.0	12.0	12.0	0.0	23.0
		60代	100	70.0	23.0	7.0	19.0	7.0	6.0	9.0	2.0	16.0
	70代以上	100	70.0	36.0	15.0	13.0	14.0	6.0	15.0	0.0	17.0	
	女性	20代	100	53.0	9.0	7.0	18.0	15.0	25.0	10.0	0.0	22.0
		30代	100	55.0	14.0	8.0	17.0	11.0	15.0	14.0	0.0	23.0
		40代	100	62.0	25.0	4.0	22.0	14.0	14.0	13.0	1.0	19.0
		50代	100	67.0	24.0	1.0	21.0	15.0	12.0	14.0	1.0	18.0
60代		100	65.0	27.0	7.0	20.0	13.0	12.0	12.0	3.0	12.0	
70代以上	100	68.0	36.0	12.0	15.0	16.0	9.0	26.0	2.0	11.0		
同居家族別	男性	単身世帯	208	53.4	18.3	11.5	23.1	11.1	13.9	9.1	1.0	24.0
		単身世帯以外	352	61.4	25.9	13.1	19.6	14.5	9.4	11.6	0.6	20.2
		子育て世帯	40	45.0	32.5	22.5	42.5	20.0	25.0	2.5	0.0	22.5
	女性	単身世帯	176	58.0	15.3	5.1	16.5	11.9	14.2	10.8	0.0	24.4
		単身世帯以外	374	62.8	27.5	7.2	20.9	15.2	14.7	16.3	1.9	14.4
		子育て世帯	50	66.0	10.0	6.0	12.0	12.0	14.0	18.0	0.0	16.0
住居別	男性	持ち家(一戸建て)	194	61.3	28.9	14.4	23.7	18.0	10.3	11.9	1.0	19.1
		持ち家(集合住宅)	121	58.7	24.8	16.5	22.3	12.4	9.9	15.7	0.0	19.0
		賃貸(集合住宅)	264	51.5	18.6	10.6	21.6	11.4	14.4	6.8	0.8	26.5
		その他	21	90.5	33.3	14.3	19.0	9.5	9.5	4.8	0.0	0.0
	女性	持ち家(一戸建て)	159	64.8	28.3	8.2	22.6	17.0	15.7	19.5	1.9	11.9
		持ち家(集合住宅)	159	62.3	33.3	6.3	18.2	10.7	11.3	20.1	0.0	15.7
		賃貸(集合住宅)	266	59.4	13.5	4.9	17.3	13.2	16.2	9.4	1.5	21.8
		その他	16	62.5	6.3	18.8	12.5	31.3	6.3	6.3	0.0	18.8

就労時間別	男性	有職者	30 時間未満	62	59.7	17.7	14.5	24.2	9.7	8.1	12.9	0.0	19.4
			30～50 時間未満	244	57.0	24.6	13.5	28.7	16.0	13.9	10.2	0.8	20.5
			50 時間以上	121	56.2	27.3	15.7	21.5	15.7	14.9	9.9	0.8	20.7
			きまっていない	22	59.1	9.1	4.5	4.5	13.6	9.1	13.6	0.0	27.3
			TOTAL	449	57.2	23.6	13.8	24.9	14.9	13.1	10.7	0.7	20.7
	無職			151	58.3	23.8	11.3	14.6	9.9	8.6	8.6	0.7	24.5
	女性	有職者	30 時間未満	134	65.7	20.1	7.5	16.4	14.9	14.9	17.9	0.0	14.9
			30～50 時間未満	152	55.9	15.8	4.6	23.0	13.8	19.1	10.5	0.0	21.1
			50 時間以上	33	63.6	21.2	0.0	12.1	6.1	15.2	6.1	0.0	33.3
			きまっていない	16	56.3	18.8	6.3	12.5	0.0	6.3	25.0	6.3	12.5
TOTAL			335	60.6	18.2	5.4	18.8	12.8	16.4	13.7	0.3	19.4	
無職			265	63.0	27.9	7.9	18.9	15.5	12.1	16.2	2.3	15.1	

- 防災に関する知識や情報の入手方法を把握するために設定した。
- どの属性も「テレビやラジオ」と回答する人の割合が最も高く、特に 60 代・70 代の以降の男女、子育て世帯の女性で特に割合が高いが、20 代・30 代男性、子育て世帯男性、世帯収入 800 万円以上の男性は相対的に低い。
- 「特になし」と回答した人が高い割合の属性は、20 代男性(30.0%)、就労時間 50 時間以上の女性(33.3%)となっている。
- 子育て世帯男性は複数の項目で相対的に高くなっている。

大阪市・区役所に情報発信を担ってほしいもの

Q36 【問 35 で「9. 特になし」以外と回答】

前の設問にてお聞きした知識や情報を入手するために活用しているものの中で、大阪市・区役所に情報発信を担ってほしいと考えるものがあればお答えください。あなたは防災に関する知識や情報を入手するために、どのようなものを積極的に活用していますか。(MA)

		回答者数 (n)	インターネットテレビやラジオ	広報誌、パンフレット、書籍	防災に関する展示会・講演会・セミナー・シンポジウム等による発信	防災に関する対策やイベント、災害時の情報など 防災に関する情報が集約されたホームページ	防災に関する対策やイベント、災害時の情報など 防災に関する情報が集約された防災アプリ	SNS 防災に関する対策やイベント、災害時の情報など 防災に関する情報が集約された情報がプッシュ型で届く	地域の会合を通じた情報提供	その他	特になし	
全体		965	52.8	33.9	14.4	28.9	26.1	21.9	12.4	0.5	8.6	
性別	男性	470	58.7	34.5	18.1	29.6	24.3	17.7	13.0	0.6	7.4	
	女性	495	47.3	33.3	10.9	28.3	27.9	25.9	11.9	0.4	9.7	
年代別	男性	20 代	70	58.6	34.3	20.0	31.4	18.6	25.7	12.9	0.0	8.6
		30 代	73	64.4	20.5	26.0	42.5	38.4	26.0	6.8	0.0	8.2
		40 代	83	59.0	25.3	16.9	30.1	26.5	16.9	4.8	1.2	7.2
		50 代	77	61.0	42.9	15.6	23.4	23.4	16.9	9.1	2.6	6.5
		60 代	84	47.6	39.3	14.3	22.6	19.0	13.1	17.9	0.0	8.3
		70 代以上	83	62.7	43.4	16.9	28.9	20.5	9.6	25.3	0.0	6.0

	女性	20代	78	41.0	16.7	15.4	28.2	23.1	32.1	12.8	0.0	11.5
		30代	77	44.2	31.2	5.2	24.7	35.1	39.0	6.5	0.0	11.7
		40代	81	45.7	35.8	9.9	29.6	27.2	22.2	8.6	0.0	11.1
		50代	82	53.7	31.7	9.8	37.8	22.0	24.4	12.2	1.2	11.0
		60代	88	55.7	39.8	11.4	29.5	30.7	23.9	12.5	0.0	4.5
		70代以上	89	42.7	42.7	13.5	20.2	29.2	15.7	18.0	1.1	9.0
同居家族別	男性	単身世帯	158	62.0	27.2	15.2	29.1	20.9	19.0	13.3	0.0	10.1
		単身世帯以外	281	58.4	38.8	17.4	28.5	23.5	16.7	14.2	1.1	6.4
		子育て世帯	31	45.2	32.3	38.7	41.9	48.4	19.4	0.0	0.0	3.2
	女性	単身世帯	133	47.4	24.1	11.3	30.1	21.1	20.3	12.0	0.8	15.0
		単身世帯以外	320	47.5	37.2	11.6	27.5	30.3	26.6	12.5	0.3	7.8
		子育て世帯	42	45.2	33.3	4.8	28.6	31.0	38.1	7.1	0.0	7.1

- 防災に関する知識や情報の入手について大阪市・区役所に発信を求めるものを把握するために設定した。
- 最も回答の割合が高いものは男女ともに「インターネットテレビやラジオ」(男性 58.7%・女性 47.3%)となっている。
- 「広報紙、パンフレット、書籍」は高い年代で割合が高くなっている。
- 20代、30代女性、子育て世帯の女性では「プッシュ型で届くSNS」と回答した人の割合が高くなっている。

より求めている防災情報

Q37 災害などの対策に取組むために、どのような「情報」があるとより積極的に備えようと思いますか。(MA)

(%)

		回答者数 (n)	でも役に立つ防災対策(例:ローリングストック)に関する情報	自治体の対策・取り組みの情報	最新の防災グッズなど話題性のある情報	今後予測される災害や被害の状況	災害を経験した人の体験談	同じ地域に住む他の家庭が取り組んでいること	その他	わからない	
全体		1,200	50.7	31.8	32.5	40.4	19.1	14.6	0.8	17.9	
性別	男性	600	45.3	34.0	27.2	36.3	16.3	10.5	0.7	21.5	
	女性	600	56.0	29.7	37.8	44.5	21.8	18.7	0.8	14.3	
年代別	男性	20代	100	44.0	33.0	33.0	28.0	26.0	13.0	0.0	21.0
		30代	100	43.0	35.0	37.0	37.0	20.0	12.0	1.0	29.0
		40代	100	49.0	31.0	23.0	33.0	21.0	6.0	1.0	23.0
		50代	100	41.0	35.0	20.0	36.0	14.0	12.0	1.0	23.0
		60代	100	45.0	36.0	20.0	35.0	9.0	10.0	0.0	20.0
		70代以上	100	50.0	34.0	30.0	49.0	8.0	10.0	1.0	13.0
	女性	20代	100	53.0	19.0	34.0	31.0	17.0	18.0	1.0	16.0
		30代	100	57.0	29.0	43.0	45.0	23.0	26.0	1.0	17.0
		40代	100	50.0	27.0	35.0	44.0	28.0	18.0	0.0	17.0
		50代	100	59.0	38.0	40.0	51.0	24.0	23.0	1.0	11.0
		60代	100	65.0	30.0	38.0	47.0	20.0	17.0	0.0	13.0
		70代以上	100	52.0	35.0	37.0	49.0	19.0	10.0	2.0	12.0

同居家族別	男性	単身世帯	208	41.8	33.2	27.4	34.6	14.9	10.1	0.5	27.4	
		単身世帯以外	352	47.2	33.8	25.6	36.6	15.9	10.8	0.9	18.8	
		子育て世帯	40	47.5	40.0	40.0	42.5	27.5	10.0	0.0	15.0	
	女性	単身世帯	176	55.7	25.0	35.8	40.9	20.5	13.1	0.6	19.9	
		単身世帯以外	374	56.4	32.6	39.3	46.5	23.5	19.5	0.8	12.0	
		子育て世帯	50	54.0	24.0	34.0	42.0	14.0	32.0	2.0	12.0	
住居別	男性	持ち家(一戸建て)	194	50.5	37.1	21.1	39.7	13.9	11.9	1.5	17.0	
		持ち家(集合住宅)	121	44.6	35.5	33.1	33.1	15.7	9.1	0.8	19.0	
		賃貸(集合住宅)	264	41.3	29.5	27.7	34.8	17.4	9.8	0.0	26.5	
		その他	21	52.4	52.4	42.9	42.9	28.6	14.3	0.0	14.3	
	女性	持ち家(一戸建て)	159	60.4	33.3	42.1	45.9	22.6	19.5	1.9	9.4	
		持ち家(集合住宅)	159	59.7	35.8	37.7	43.4	22.6	15.7	0.6	10.1	
		賃貸(集合住宅)	266	52.3	24.1	35.7	43.6	21.4	19.9	0.4	19.5	
		その他	16	37.5	25.0	31.3	56.3	12.5	18.8	0.0	18.8	
就労時間別	男性	有職者	30時間未満	62	32.3	38.7	33.9	32.3	19.4	11.3	0.0	22.6
			30～50時間未満	244	50.8	34.4	29.9	36.5	19.3	11.1	0.0	19.7
			50時間以上	121	46.3	38.8	27.3	38.8	16.5	9.1	2.5	16.5
			きまっていない	22	36.4	31.8	31.8	36.4	13.6	13.6	0.0	31.8
			TOTAL	449	46.3	36.1	29.8	36.5	18.3	10.7	0.7	19.8
		無職	151	42.4	27.8	19.2	35.8	10.6	9.9	0.7	26.5	
	女性	有職者	30時間未満	134	54.5	26.9	34.3	39.6	22.4	25.4	0.7	15.7
			30～50時間未満	152	56.6	29.6	37.5	40.1	23.0	16.4	1.3	12.5
			50時間以上	33	69.7	39.4	54.5	45.5	21.2	18.2	0.0	15.2
			きまっていない	16	43.8	18.8	18.8	12.5	18.8	12.5	0.0	37.5
			TOTAL	335	56.4	29.0	37.0	39.1	22.4	20.0	0.9	15.2
		無職	265	55.5	30.6	38.9	51.3	21.1	17.0	0.8	13.2	

- どのような防災情報があるとより積極的に備えようと思うかを把握するために設定した。
- 最も回答の割合が高いものは男女ともに「いざというときだけでなく、日常生活でも役に立つ防災対策に関する情報」(男性 45.3%、女性 56.0%)となっている。次いで「今後予測される災害や被害の状況」(男性 36.3%・女性 44.5%)となっている。
- 「同じ地域に住むほかの家庭が取り組んでいること」と回答した人の割合が高い属性は 30 代女性 (26.0%)、子育て世帯の女性 (32.0%)、就業時間 30 時間未満の女性 (25.4%) となっている。

Ⅲ. 考察

1 防災に関する意識や知識について（問 11～16）

大阪市の防災課題の1つである南海トラフ沿いの巨大地震に関する質問によって市民の防災知識と意識について明らかにすることとした。「知らない」市民は13.9%ではあるが、「詳しく知らない」市民が40.1%存在している。「聞いたことはあるものの詳しく知らない」と「知らない」を合わせると54%の市民が南海トラフ沿いの巨大地震についてよく知らないことが確かめられた（問11）。また、居住地域のハザードマップを「見たことがない」市民は31.4%である（問12）。男性の50代以上の男性の4割、女性の20代では47%が見たことないと回答している。さらに男女とも単身者の38%はハザードマップを「見たことがない」ことがわかった。大阪市のホームページやパンフレットなどでハザードマップを見たことがある市民が約7割となっている。南海トラフ沿いの巨大地震とハザードマップの認知だけではあるが、市民の防災知識の一端を示しているといえる。世代や世帯のありようによって防災知識の差が生じているようであるが、全体としては大きな男女差はなかった。

防災意識を得るために、日頃からの災害についての話し合いについて調べた（問13）。直近の1～2年のうちに地震や津波など自然災害について家族や身近な人と話し合った市民は43.9%とほぼ半分であった。女性は男性よりも少し多く、世代間の差はほとんどない。また未就学児のいる子育て世帯では半分以上が話し合っている。単身世帯では7割が話し合っていない。話し合った人は、食料や飲料水、医薬品などの備蓄品について、避難場所や経路、そして非常持ち出しなどについて話し合っている。子育て世帯の男性は危険箇所を挙げる人も多い（問14）。

話し合っていない人にその理由をたずねると、「きっかけがない」「特に理由なし」そして「相手がない」の順であった（問15）。子育て世帯と単身女性が特に「きっかけ」のなさを挙げている。また子育て世帯は時間のなさも挙げている。防災意識は防災への備えからもうかがい知ることができる。災害対策は貴重品確保よりも食料飲料水および医薬品確保など生命維持優先であることが示された。女性の場合は生命維持のための備え、男性は危険回避へ意識があることが示された。子育て世帯の男性は、話し合いも備えについても関与が高いことがわかった（問16）。

2 地域での防災活動（問 17～34）

もしもの場合を想定した設問として「災害時の困ったときの相談相手」の有無をたずねた。話し相手がないのは圧倒的に単身者であり、特に男性の割合が高い。全体に「いないが、いたらいと思う」比率はほぼ共通して最大となっている。相談相手は広く求められているといえよう（問17）。高齢女性、そして子育て世帯は相対的ではあるが「話す相手」が存在する割合が高かった。「話す相手は必要ない」と「いたらよいのにいない」とを合わせて「いない」とカウントすると全体の67.9%である。約7割の人が話す人がいないと答えている。特に50時間以上就業している人が「話す相手」がない割合が高く、中でも特に女性はいない割合が高い（81.8%）。

話す人がいると答えた人について、特に「小学校区」に限定したとき、男性は女性よりも話し相手がいることが示された。地域活動、自治会は男性が中心となってきた歴史や経緯が影響していると考えられる。特に子育て世帯に顕著であったが、無職の男性と女性を比較してもやはり男

性の方が話す相手がいるのである。フルタイム就労の男女を比較しても同様であった（問18）。

災害への備え対策についての問では男女差が目立った。女性と男性の優先する順位は同じであったが、いずれの項目についても、女性の方が男性よりも対策をしているという結果となった。

（問19）。そして「心配しない」とする人は、男性が女性の2倍にのぼる。同様に世帯収入別データでも、男性が相対的に備えを気にしていないという割合が高く、男女差が際立った。ただ、子育て世帯では男女差はほとんどなく、子育てを担う立場では、災害への備え対策における男女差が無くなることが興味深い。

避難所の備蓄や運営に対する希望と期待では（問20、21、22）、特に避難所に対する“男女別スペース”への要望は男女ともに高い。具体的には男女別居住スペースやトイレ、お風呂である。さらに避難所運営に対する女性の不安な思いが目立った。男女ともに「ニーズが反映されない」とする割合が最も高かった。男性の40%、女性の31.3%が「反映される」と考えているにとどまる。避難所運営等におけるニーズの反映は男女ともに課題であることがわかる。

地域の防災活動のリーダーは、男女同数との回答も3割程度にとどまり、ほとんどにおいて男性が多い現状が示された（問23）。また、これと関連して、避難所で市民ニーズを反映するために地域活動への女性の参加者増加は確実に求められている（問24）。そのためには市民への啓発が必要であると考えられるため、「地域防災での男女に配慮した視点を学習する機会」を求める女性の割合は高い。男性の一部もまた求めている。加えて、それは地域防災以外の場でも求められている。こうした要望の詳細は自由記述にきわめて具体的に綴られている（問25 具体的には回答集参照）。

それぞれの地域で行われている防災活動の主催者の認知は、自治体と自治会・町内会、次いでマンション・団地の順となっている（問26）。ただそうした活動への参加状況を問うと、地域防災活動の主権団体別にみると、市役所など公的機関の活動で「参加していない」が全体の半数にのぼる。男性より女性の参加率が低い（問27_1）。「機会があれば参加」しているのは男女とも同じくらい存在する。しかし、男性の場合は「義務感から」、「つきあいで」の参加が女性の倍以上である。男性の方が地域活動での関係性が、女性よりも強い現状がうかがえる。この傾向は主宰が自治会（問27_2）やマンション・団地（問27_3）、そして防災以外（問27_4）となっても同様である。

ここでも子育て世帯は特徴を示す。参考値にとどまることを念頭に置いても、男性の「参加していない」が2割以下である。一方で、子育て世帯の女性の「参加していない」が7割近い（問27_1）。性別による地域との関係性の違いが際立って示された。2021年度の「社会生活基本調査」では、女性の家事関連時間は7時間28分で、男性の3.9倍以上にのぼる。女性の地域活動参加が男性に比べて低いのは、男性に比べて家事育児の負担から時間の余裕がないことも一因となっていると思われる。

さらに踏み込んで、参加している理由を確認すると、地域に対する考え方が示された。つまり地域との関係性を日頃から大切にしたいという考え方を示すのは全体の36.1%、男性は38.8%、女性は32.5%である（問28）。もちろん「いざというときに」備えたり、「訓練が必要」という考えはそれより多い。全体の49.5%、男性の49.5%、女性の49.4%である。「防災にはみんなの力が必要」という人が男女ともに半数を占めていることはきわめて心強い。参加し

ている人のうち、男女ともに3割程度が、「地域の人との関係性を作る」ことを参加理由としている。いざというときに備えたり、地域の関係性を評価したりする人々が、防災活動に参加することによって「防災の大切さを知る」ことができた人が半数近い（問29）。「災害時の行動」や「防災組織活動」を知るよい機会となったとした人は男女ともに4割いる。

参加した人は「より多くの参加ができるように」と考える人が、男女ともに3割以上である。その一方で「内容が形式的」なので、「もっと本格的に防災活動を」という要望も男女とも2割ほどみられた。男性は地域の関係性確保を重視し（問28 男性の方が女性より多い）、避難所確認など具体的課題を重視するのは女性（問28 女性のほうが男性より多い）という傾向がある。

注目すべきは、不参加の理由である（問30）。最も多いのは「きっかけがない」であった。男性の33%、女性の48.7%が、選択している。次いで多いのが男女共通で「活動の時間が少ない」であり、男性28.5%、女性が30.3%となっている。「面倒である」という理由は全体の3割近い。詳細に示せば、男性の33.9%、女性21.1%である。

「活動の情報がない」ことは相対的に選んだ人は多くはなかったが（男性17.4%、女性27.9%）、地域防災活動における男女共同参画における課題であると言えるであろう。その意味で、不参加に関わる問は、今後の防災活動展開についての示唆となる（問32）。具体的には「開催時間」「会場」「内容への興味」、さらに「特典」や「誰かの誘い」の工夫が参加の促進につながることで、とりわけ女性について確認できた。

防災活動への男女共同参画の観点からの問（問32）については、全体として平等に運営されているとする人が半数であった。残る半数は全体として現状が「男性中心」という評価であった。これは、子どもや高齢者などテーマ設定（問32_1）、防災グッズ（問32_3）をはじめ、いずれの問でも共通する。特に、防災訓練企画（問32_4）、避難所運営（問32_5）、避難所ルール策定（問32_6）、復興計画策定（問32_8）など、何かを企画し決定する課題での指摘が目立っている。つまり、“決める”局面における男性中心の現状が示されている。他方で、女性の役割とされがちな家事に関連する項目である防災食（問32_2）については、女性が中心となっていることが示された。

防災活動の多様な局面において男女共同参画視点を推進する手段を、いくつか選択肢を示しながら問うと、きわめて現実に即した調査結果が示された。「地域防災活動で男女比を男女同数とする」ことは、女性よりも男性がそれを求める声大きいことが特筆される。調査設計の際、大阪市男女きらめき計画において男女のニーズの違いへの配慮を反映する課題を確認したが、その課題解決の1つとして防災活動とその政策決定への女性の参画が求められていることが、今回の調査結果でも示されているといえる。

それとともに「地域防災に関する情報提供による啓発」の要望が大きい。全体としては、女性の方が求める声は多い。また、いずれの категорияにも共通する結果（3割程度）であったが、特に子育て世帯の男性の場合、5割を示した（問34）。

さらに、対応に時間を要する中長期課題である「地域活動での女性リーダー育成」や「学校教育のなかでの防災教育」への要望も、全体の3人に1人が求めていることにも注目したい。

3. 防災に関する情報（問 35～37）

今回の調査において、防災の意識・知識および地域防災活動とともに、その両方に関係する事柄として、防災情報へのアクセスの現状を調査している（問 35）。

市民がどのように防災情報を入手しているか（複数選択）では、約6割（59.6%）がテレビ・ラジオによるとしたのが最大であった。つづいて、新聞雑誌など活字媒体（23.1%）やインターネットのホームページ（20.6%）について、防災アプリ（13.8%）やSNS（13.3%）という答えであった。男女差はほとんどないが、子育て世帯の男性のみホームページ利用が多い。ただこの質問に対しては、積極的に利用しているものは「ない」という回答が5人に1人（19.6%）存在している現実がみられた。

防災情報について、大阪市や区役所に特に求めたい事柄をたずねると、インターネットテレビやラジオでの発信の要望が、半数から寄せられた（全体 52.8%、男性 58.7%、女性 47.3%）。従来型の情報発信に加えて「防災ホームページ」や「防災アプリ」の充実の要望が高い（問 36）。若年層と子育て世帯は、SNS経由の情報発信を希望していることがわかる。これまでクレオ大阪中央が行った調査（令和4年度 男女共同参画の視点からの市民生活に関する調査）でも明らかとなっていたが、スマートフォン、タブレットやパソコンの所持とSNS利用の普及が若年層を中心に高齢者まで広く浸透していることが反映していると考えられる。

防災に関する情報について、防災情報へのアクセスの現状や手段に男女差が小さいものの、求める情報には大きな男女差はなかった。

その「情報としてどのようなものがあれば防災に積極的になれるか」の調査（複数選択）は、防災活動の要となる回答結果を示している（問 37）。つまり“防災活動の日常化”といえる。「日常生活でも役立つ防災対策」が最も求められているという結果であった（全体 50.0%）。そして、その傾向は男性（45.3%）より女性（56.0%）が高い。男性が「自治体の対策・取組」情報を女性より求めるのに対して、女性は「最新防災グッズ」情報を男性より求める。そのような多少の差はあっても「予測される災害や被害」情報への要望は男女ともに高かった。

IV. まとめ

今回の調査において、第一に防災に関する知識、第二に防災に関わる地域活動、第三には、意識と行動の両者に共通する要素としての防災情報を課題設定とした。

男女共同参画の視点からの防災について、市民の防災知識について男女全体での差はわずかであった。それに対して行動面では大きな男女差をいくつか確認できた。特に防災に関わる地域活動に関連する参画においては男性中心の現状があった。男性の地域活動との関係性は女性よりも強い。それは日常的な地域活動への参加という行動との相互作用がうかがわれる。

他方、女性が相対的に時間の制約の中にあることも示された。ただ、未就学児を育てる子育て世帯は、男性の意識や行動は女性と差異が少ない項目がみられた。その他、単身者や若年層、特に20代の防災に関する意識の低さや行動の少なさについても特徴が確認できた。

そもそも、内閣府のガイドライン（前出）によれば、災害時には平常時における社会の課題が一層顕著になって現れるため、平常時からの男女共同参画社会の実現が、防災・復興を円滑に進めていくための基盤であるとしている。その施策として今以上に、女性の参加・参画が地域活動と防災課題の決定の場（委員会など）で課題とされている。本調査にて男女共同参画視点からの防災に関する市民の意識、行動の両面からのアプローチにより、防災に関する男女共同参画について大阪市の現状と課題について以下の3点が確認できた。

第一に、防災活動と緊急時災害時行動における安全・安心の実現とプライバシー確保である。安全・安心の実現という社会課題は男女を問わずすべての市民に共通するものであるが、複数の女性から、避難所での配慮を問う自由記述のなかで「怖さ」に関する言及があった。具体的には、安全に安心して利用できるトイレや入浴・着替え場所、そして寝床などを求める声があった。これらの「怖さ」を払拭できる防災・防犯施策のためには、女性への暴力防止等、一人ひとりの安全を守ることはどのような状況にあっても守られるべきものであるとする対策も必要である。そして、人としてのプライバシーが守られることも同時に求められている。今回調査では、男女共同参画視点の課題に焦点をあわせることで、安全・安心やプライバシーの課題が浮かび上がる結果となった。男女共同参画視点からの地域防災活動の推進は、市民の安全安心やプライバシー実現を担保する重要な手立てとなるといえよう。

第二に、コミュニケーションの重要性とその促進である。「災害について話し合う」、「災害時に相談する」という会話がまず個々の防災に関する行動のスタートとなりうる。もちろん各個人が情報収集し考えることも欠かせない。しかし、防災行動については地域活動を成立させるためにはまず会話であり交流が必要である。

具体的には今回調査を通して（問13～15、17、18）、男女それぞれの属性による一定の特徴を把握することができた。市民の属性ごとの特徴把握は、防災活動の施策、とりわけ啓発や情報発信の際のターゲットや焦点設定に資すると思われる。

最後に、本調査の行動についての調査部分では、地域防災活動に関連した課題の男女差を確認できた。自由記述では、地域防災活動を行うことについて、女性は「意見が言いづらかったり、性被害やセクハラのターゲットになったりしてしまいそう」や「一人暮らしが明らかになる」こ

とへの不安や懸念を感じており、それらが地域防災活動への参加・参画をためらう理由にもなっていることが推測された。

自由記述の多様な回答は少子高齢社会や単身世帯の増加が進む現在の課題を改めて示すものでもあった。

意識と行動をつなぐ要素と位置づけた情報については、男性と女性の求める違いは一定認められた。しかしそれ以上に、防災活動を日常化することへ積極的な意識が女性からも男性からも確認できた。近年のDX化が反映され、市民の中でもインターネットの活用が進んでいることが今回調査でも確認できた。情報提供の要望には、従来チャンネルとともにより一層インターネットが利活用されることが求められているといえる。この点はすべての世代に共通した傾向である。特に若年層では、男女を問わずインターネットの利活用が、強く求められていることが確認できた。

防災に関する取組は画一的なものではなく、単身世帯や子育て世帯、高齢者世帯など、それぞれの暮らし方やライフスタイルに応じたものである必要がある。それぞれに応じた取組を行うことにより、その過程において自身や地域の防災対応力の向上、防災の裾野を広げることにつながるのである。すなわち本調査で獲得した世帯、世代など多様化する対象ごとに、男女共同参画視点の防災への新しいきっかけ、すなわちチャンスとなる啓発を提供することが第1歩となるであろう。